

令和3年度第2回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ2 地域の安全について
- テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまちについて
- テーマ4 成年後見制度について
- テーマ5 ユニバーサルデザインについて



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点.....	1
4 回答者の属性.....	2
II 調査の結果.....	5
テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて.....	5
(1) 実際に行っている3R活動.....	5
(2) マイバッグの持参の有無.....	8
(3) 食品ロスを減らすために、行っていること.....	10
(4) ごみ・資源の出し方.....	13
(5) 資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出している雑がみ.....	19
テーマ2 地域の安全について.....	20
(1) 生活環境の中での犯罪等への不安.....	20
(2) 不安を感じる理由.....	21
(3) 不安を感じる犯罪等.....	22
(4) 期待する・効果的であると感じる区で実施している防犯活動.....	23
テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまちについて.....	24
(1) 認知症の早期診断・早期治療が大切であることへの理解度.....	24
(2) 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度.....	26
(3) 認知症サポーター養成講座について.....	27
(4) 認知症サポーター養成講座の受講希望について.....	28
(5) 「認知症・もの忘れ相談医」について.....	29
テーマ4 成年後見制度について.....	30
(1) 成年後見制度の認知度.....	30
(2) 成年後見制度の利用意向.....	32
(3) 後見人になってほしい人.....	34
(4) 成年後見制度が利用されるために必要なこと.....	35
(5) 成年後見制度に関する周知方法.....	36
テーマ5 ユニバーサルデザインについて.....	37
(1) ユニバーサルデザインの認知状況.....	37
(2) ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの.....	39
(3) ユニバーサルデザインについて区に期待すること.....	41
III 資料(調査票).....	43

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第2回》	調査対象	区政モニター 997名
	調査内容	テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて
		テーマ2 地域の安全について
		テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまちについて
		テーマ4 成年後見制度について
		テーマ5 ユニバーサルデザインについて
	調査期間	令和3年9月3日～令和3年9月17日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	903票（回収率 90.6%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 複数の選択肢をあわせた項目の構成比（%）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。そのため、各選択肢の構成比を足し上げた数値と差が生じることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

(例)	⇒	(表現)
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	125	13.8	6 戸塚	93	10.3
2 簗笥町	127	14.1	7 落合第一	93	10.3
3 榎町	89	9.9	8 落合第二	104	11.5
4 若松町	87	9.6	9 柏木	57	6.3
5 大久保	84	9.3	10 角筈・区役所	44	4.9
			計	903	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	368	40.8
2 女性	535	59.2
計	903	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18～19歳	8	0.9	8 50～54歳	90	10.0
2 20～24歳	25	2.8	9 55～59歳	82	9.1
3 25～29歳	25	2.8	10 60～64歳	66	7.3
4 30～34歳	66	7.3	11 65～69歳	62	6.9
5 35～39歳	77	8.5	12 70～74歳	75	8.3
6 40～44歳	97	10.7	13 75～79歳	48	5.3
7 45～49歳	123	13.6	14 80歳以上	59	6.5
			計	903	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 会社員・団体職員	354	39.2	5 学生	24	2.7
2 会社役員・団体役員	69	7.6	6 専業主婦・主夫	117	13.0
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	120	13.3	7 無職	114	12.6
			8 その他	12	1.3
4 自営業、自由業	85	9.4	無回答	8	0.9
			計	903	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合 (%)
1 新宿区内	245	37.6
2 新宿区外	405	62.1
無回答	2	0.3
計	652	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 子	364	40.3	6 兄弟姉妹	37	4.1
2 妻または夫	558	61.8	7 その他	24	2.7
3 親	109	12.1	8 ひとり暮らし	181	20.0
4 祖父母	11	1.2	無回答	12	1.3
5 孫	10	1.1	回答総計	1,306	144.6%
			計	903	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1人	301	42.4	4 4人	31	4.4
2 2人	222	31.3	5 5人以上	20	2.8
3 3人	136	19.2	無回答	0	0.0
			計	710	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 一番上の子が小学校入学前	77	21.2	4 一番上の子が学校を卒業	100	27.5
2 一番上の子が小・中学生	105	28.8	無回答	11	3.0
3 一番上の子が高・大学生	71	19.5	計	364	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1年未満	0	0.0	5 10年以上20年未満	202	22.4
2 1年以上3年未満	82	9.1	6 20年以上30年未満	127	14.1
3 3年以上5年未満	79	8.7	7 30年以上	274	30.3
4 5年以上10年未満	132	14.6	無回答	7	0.8
			計	903	100.0%

(10) 住居形態

選択肢		回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	236	26.1
	2 賃貸の一戸建て	19	2.1
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	6	0.7
	4 その他	2	0.2
集合住宅	5 分譲マンション・アパート	314	34.8
	6 賃貸マンション・アパート	259	28.7
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	4	0.4
	8 賃貸の都営・区営住宅	30	3.3
	9 社宅・公務員官舎	24	2.7
	10 その他	3	0.3
無回答		6	0.7
計		903	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	96	10.6	5 家族成熟期	41	4.5
2 家族形成期	112	12.4	6 高齢期	244	27.0
3 家族成長前期	105	11.6	7 その他	236	26.1
4 家族成長後期	69	7.6	計	903	100.0%

Ⅱ 調査の結果

テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて

(1) 実際に行っている3R活動

◎「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」が9割強

問1 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

(n=903)

【リデュース】

- | | | |
|---|--------------------------------|-------|
| 1 | 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する | 69.5% |
| 2 | 買い物際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする | 85.8 |
| 3 | 食品ロスを出さないような取組を行っている | 53.3 |
| 4 | 使い捨てになるものは、なるべく購入しない | 27.8 |

【リユース】

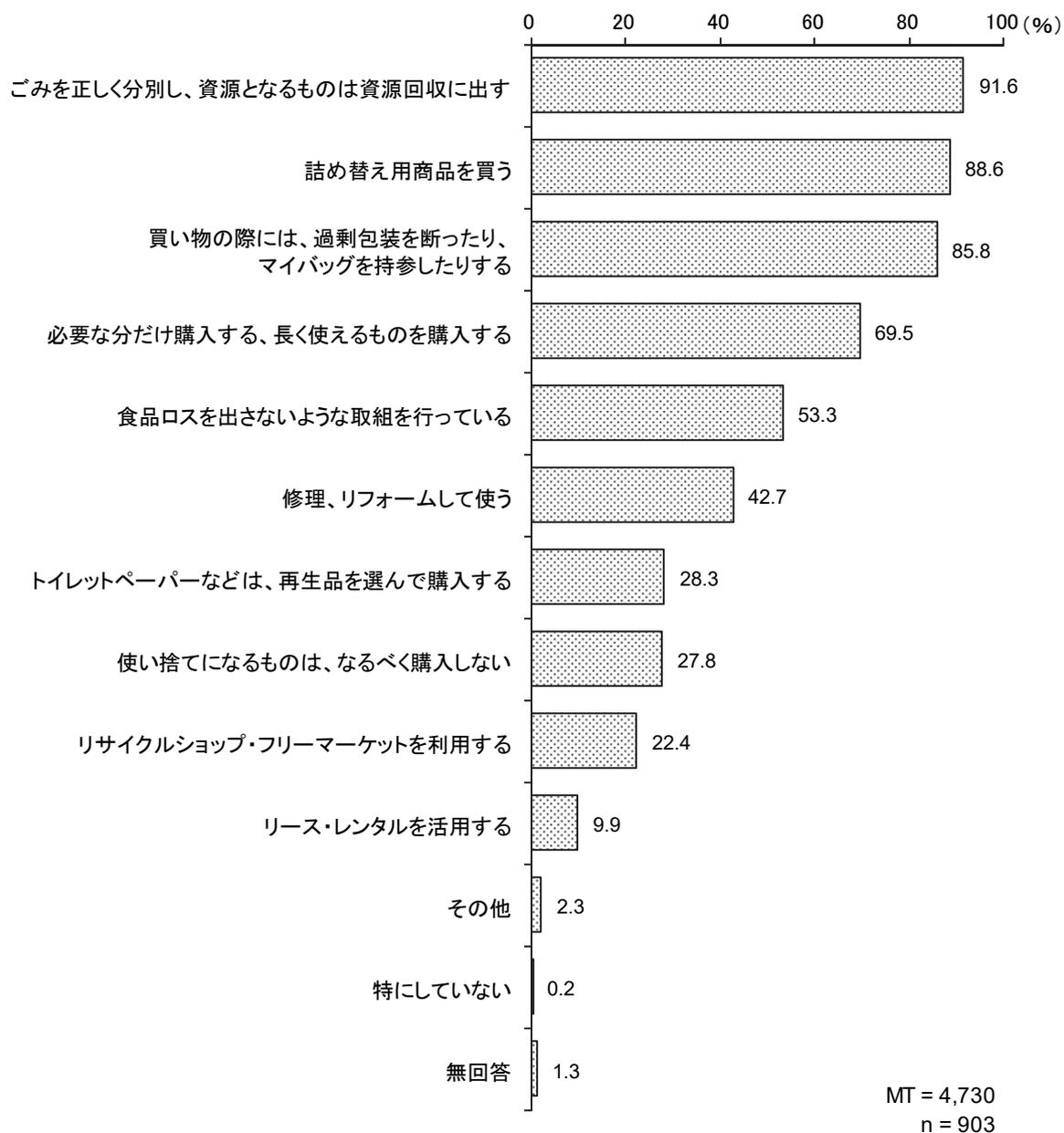
- | | | |
|---|-------------------------|------|
| 5 | 詰め替え用商品を買う | 88.6 |
| 6 | リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する | 22.4 |
| 7 | リース・レンタルを活用する | 9.9 |
| 8 | 修理、リフォームして使う | 42.7 |

【リサイクル】

- | | | |
|----|---------------------------|------|
| 9 | ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す | 91.6 |
| 10 | トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する | 28.3 |
| 11 | その他 | 2.3 |
| 12 | 特にしていない | 0.2 |
| | 無回答 | 1.3 |

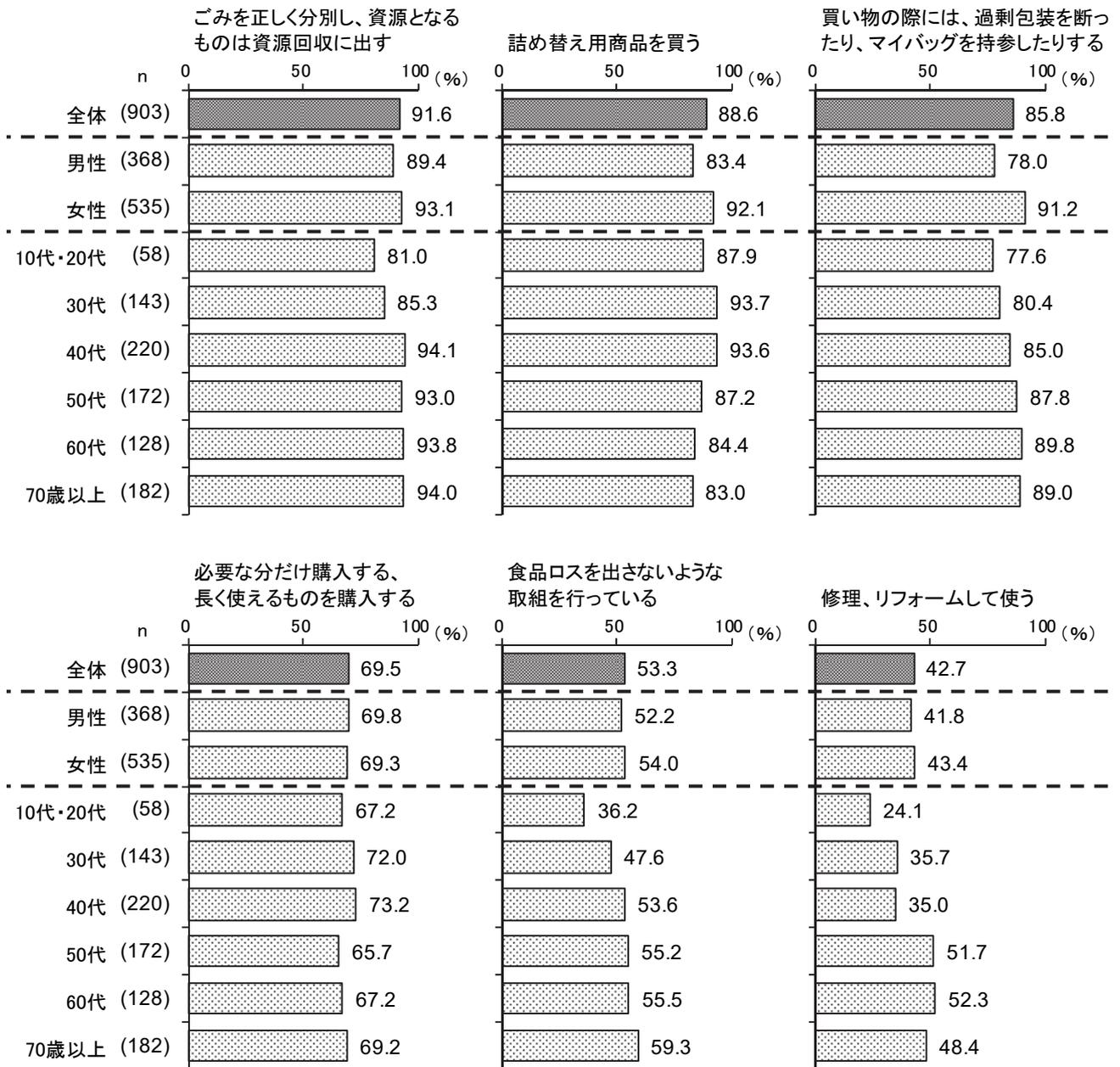
Ⅱ 調査の結果（テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて）

図1-1-1 実際に行っている3R活動



実際に行っている3R活動について、「ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す」(91.6%)が9割強で最も高く、次いで「詰め替え用商品を買う」(88.6%)が9割近く、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」(85.8%)が8割台半ばと続いている。(図1-1-1)

図1-1-2 実際に行っている3R活動
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする」は女性（91.2%）が9割強と、男性（78.0%）を13.2ポイント上回っている。また、「詰め替え用商品を買う」は女性（92.1%）が9割強と、男性（83.4%）を8.7ポイント上回っている。

年代別でみると、「修理、リフォームして使う」は60代（52.3%）が5割強と、全体（42.7%）を9.6ポイント上回っている。（図1-1-2）

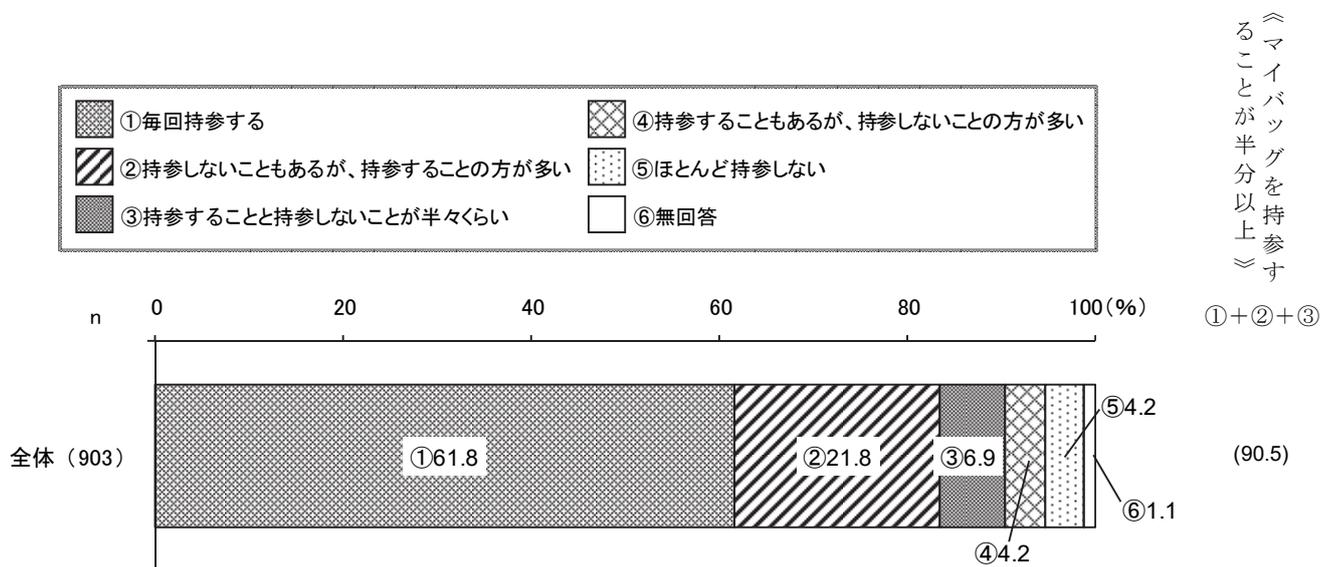
Ⅱ 調査の結果（テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて）

（2）マイバッグの持参の有無

◎「毎回持参する」が6割強

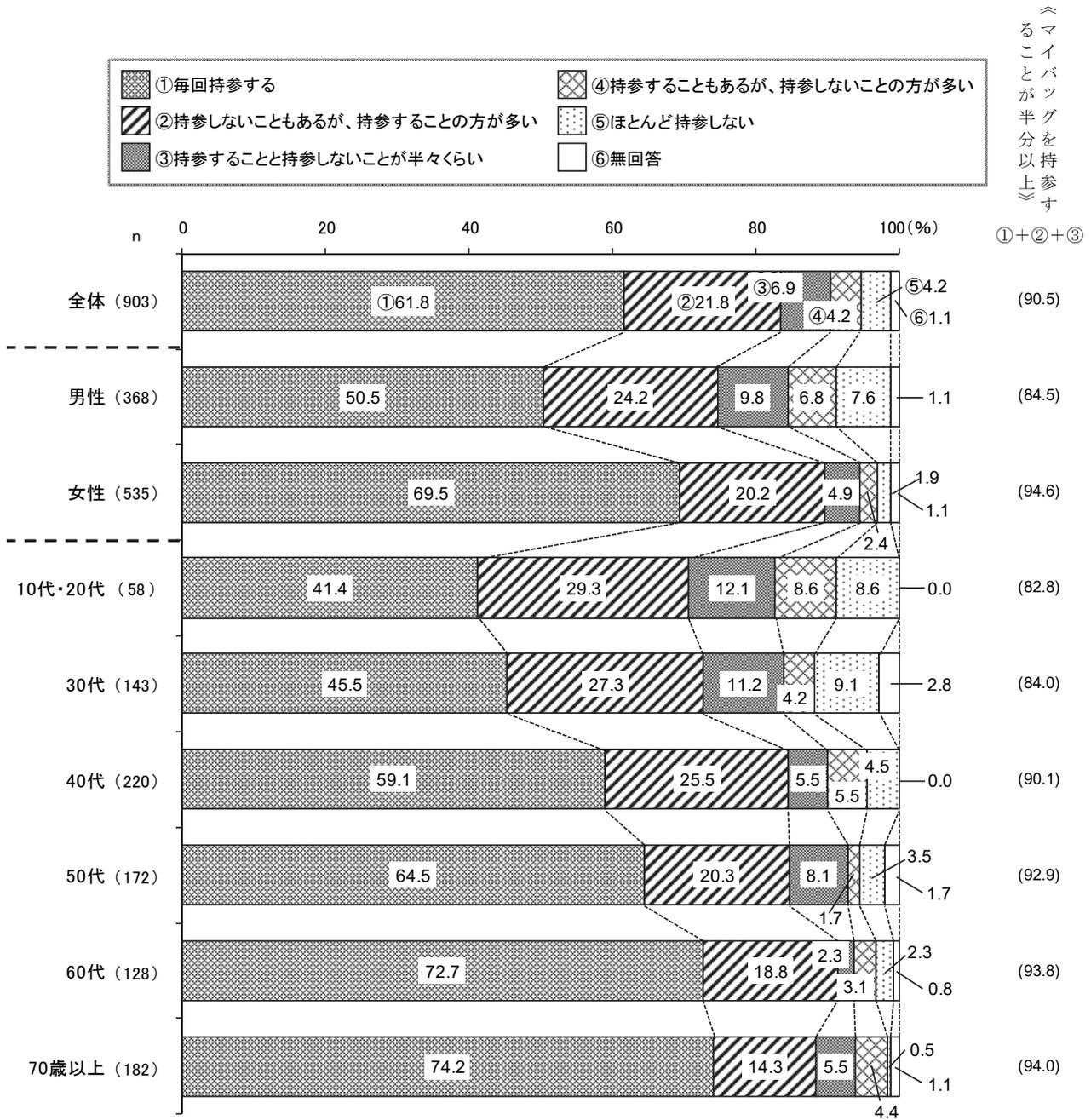
問2 あなたは買い物の際に、マイバッグを持参しますか。（〇は1つ）		(n=903)
1	毎回持参する	61.8%
2	持参しないこともあるが、持参することの方が多い	21.8
3	持参することと持参しないことが半々くらい	6.9
4	持参することもあるが、持参しないことの方が多い	4.2
5	ほとんど持参しない	4.2
	無回答	1.1

図1-2-1 マイバッグの持参の有無



マイバッグの持参の有無について、「毎回持参する」(61.8%)が6割強となっている。また、《マイバッグを持参することが半分以上》(「毎回持参する」+「持参しないこともあるが、持参することの方が多い」+「持参することと持参しないことが半々くらい」)(90.5%)が約9割となっている。(図1-2-1)

図1-2-2 マイバッグの持参の有無
(性別・年代別)



性別でみると、「毎回持参する」は女性（69.5%）が7割弱と、男性（50.5%）を19.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「毎回持参する」は70歳以上（74.2%）が7割台半ば近くと、全体（61.8%）を12.4ポイント上回っている。（図1-2-2）

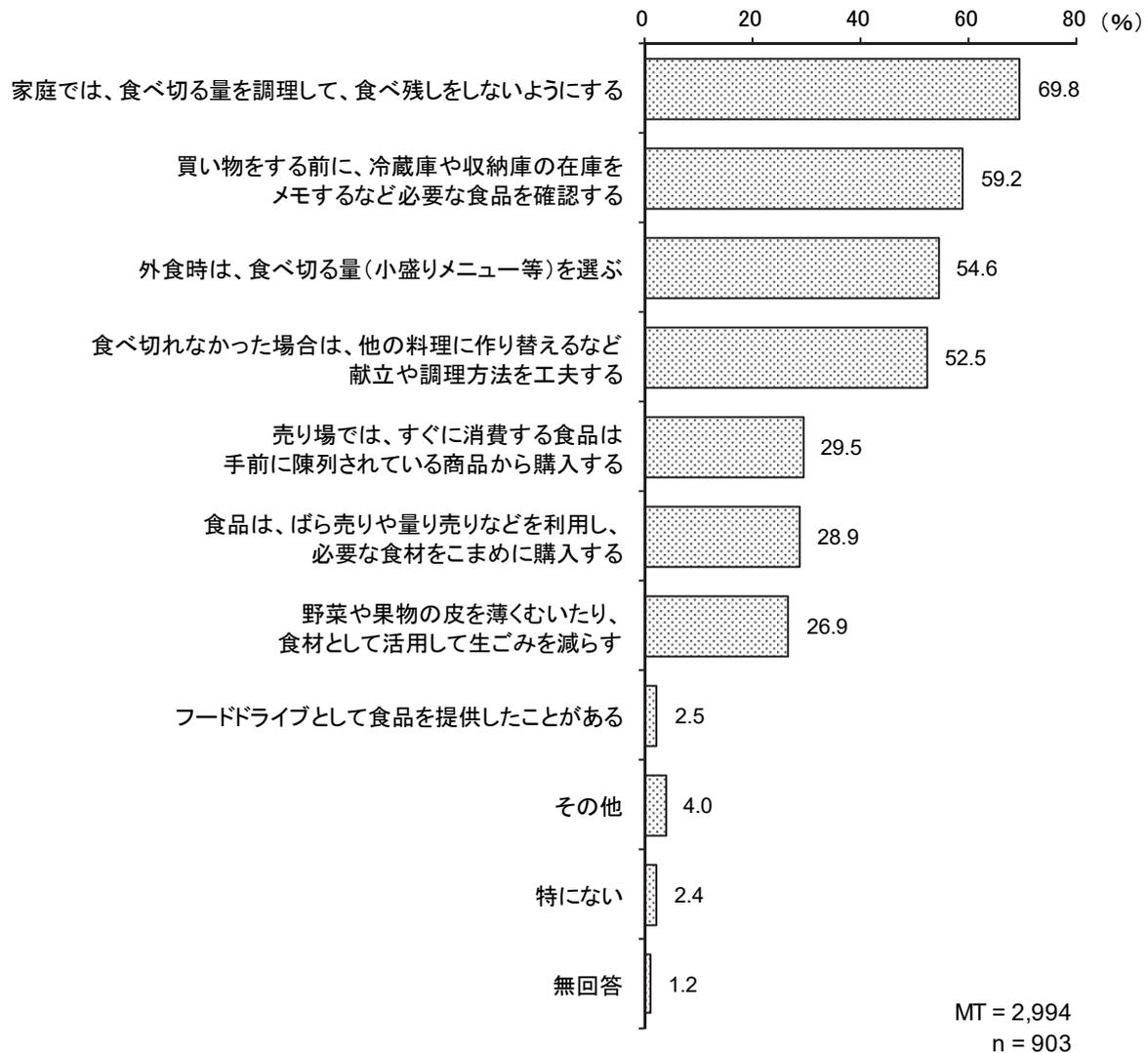
Ⅱ 調査の結果（テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて）

（3）食品ロスを減らすために、行っていること

◎「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」が7割弱

問3 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=903)
1	買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する	59.2%
2	売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する	29.5
3	食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する	28.9
4	家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする	69.8
5	野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす	26.9
6	食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する	52.5
7	外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ	54.6
8	フードドライブとして食品を提供したことがある	2.5
9	その他	4.0
10	特にない	2.4
	無回答	1.2

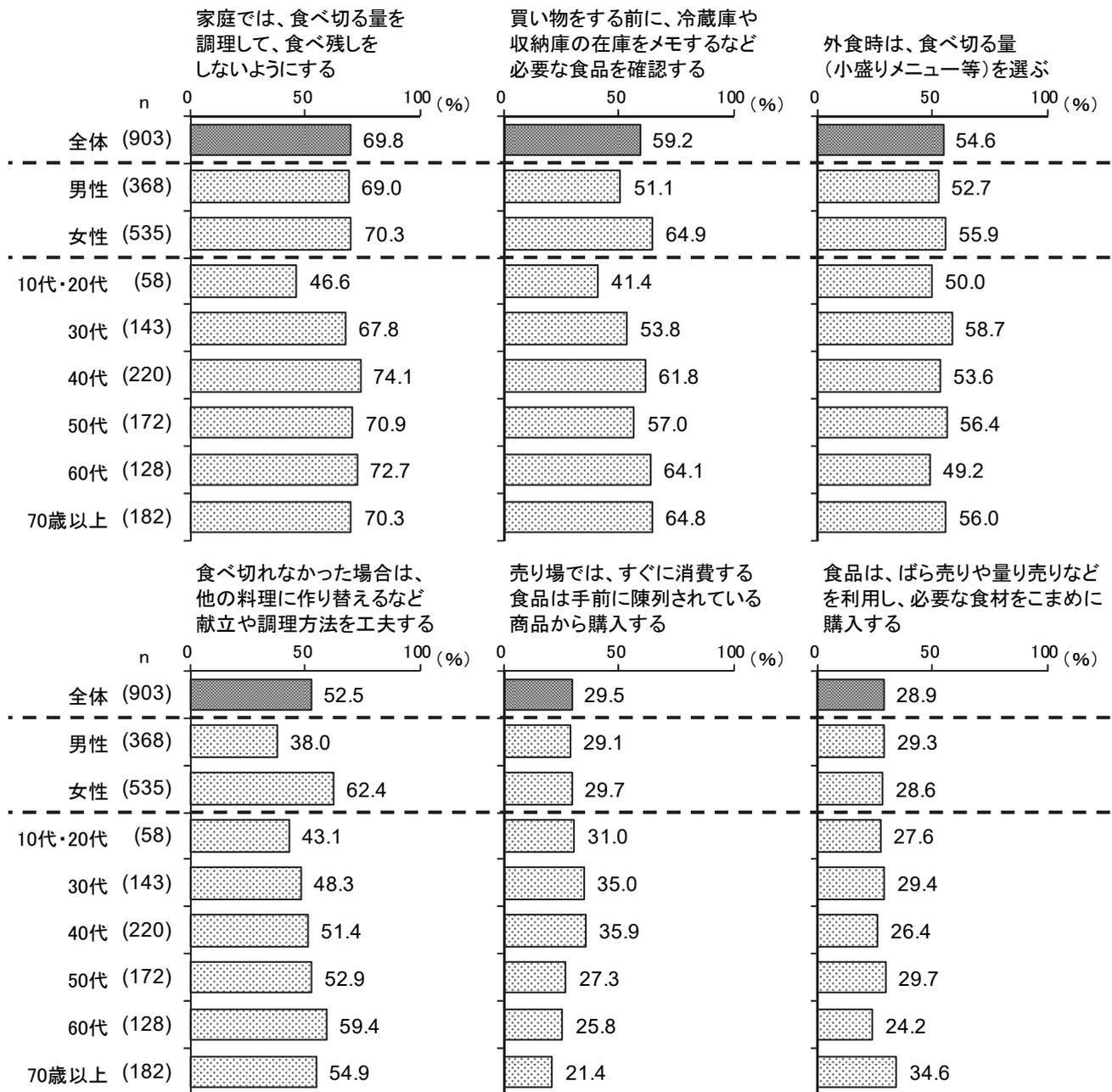
図1-3-1 食品ロスを減らすために、行っていること



食品ロスを減らすために、行っていることについて、「家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする」(69.8%)が7割弱で最も高く、次いで「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」(59.2%)が6割弱、「外食時は、食べ切る量(小盛りメニュー等)を選ぶ」(54.6%)が5割台半ば近く、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」(52.5%)が5割強と続いている。

(図1-3-1)

図1-3-2 食品ロスを減らすために、行っていること
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」は女性（62.4%）が6割強と、男性（38.0%）を24.4ポイント上回っている。また、「買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する」は女性（64.9%）が6割台半ば近くと、男性（51.1%）を13.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、「食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する」は60代（59.4%）が6割弱と、全体（52.5%）を6.9ポイント上回っている。「売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する」は40代（35.9%）が3割台半ばと、全体（29.5%）を6.4ポイント上回っている。（図1-3-2）

(4) ごみ・資源の出し方

◎『雑がみ(菓子箱・包装紙等)』で「燃やすごみ(週2回)」が6割

問4 新宿区では、古紙(新聞・雑誌・段ボール等)、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

(ア～ケそれぞれで、あてはまるものにくつでも○をつけてください)

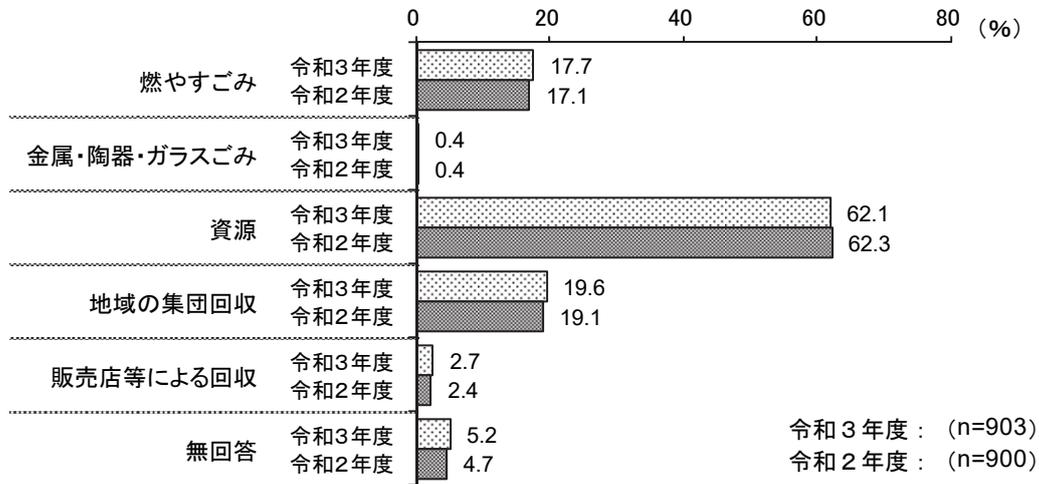
(n=903)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ガラスごみ (月2回)	資源 (週1回)	地域の集団回収	販売店等による回収	無回答
ア 新聞・チラシ	17.7%	0.4%	62.1%	19.6%	2.7%	5.2%
イ 雑誌・段ボール	4.9	0.2	79.5	18.6	0.4	1.8
ウ 雑がみ(菓子箱・包装紙等)	60.0	0.2	35.3	8.5	0.8	2.7
エ 容器包装プラスチック	29.3	2.7	62.9		5.1	5.0
オ びん	0.6	21.0	70.9	7.8	0.8	2.2
カ 缶	0.8	14.1	75.0	9.6	1.6	2.2
キ ペットボトル	3.4	2.9	79.4	9.1	7.3	2.1
ク スプレー缶・カセットボンベ	0.6	31.2	60.2			8.4
ケ 乾電池	1.2	22.6	51.1		20.4	7.1

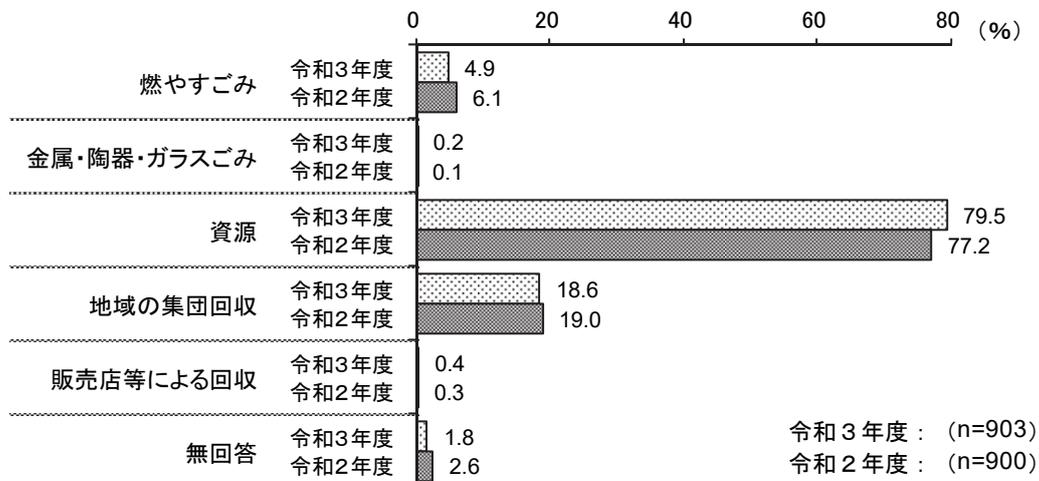
図1-4-1 ごみ・資源の出し方（経年推移）

『(ア) 新聞・チラシ』・『(イ) 雑誌・段ボール』

『(ア) 新聞・チラシ』



『(イ) 雑誌・段ボール』

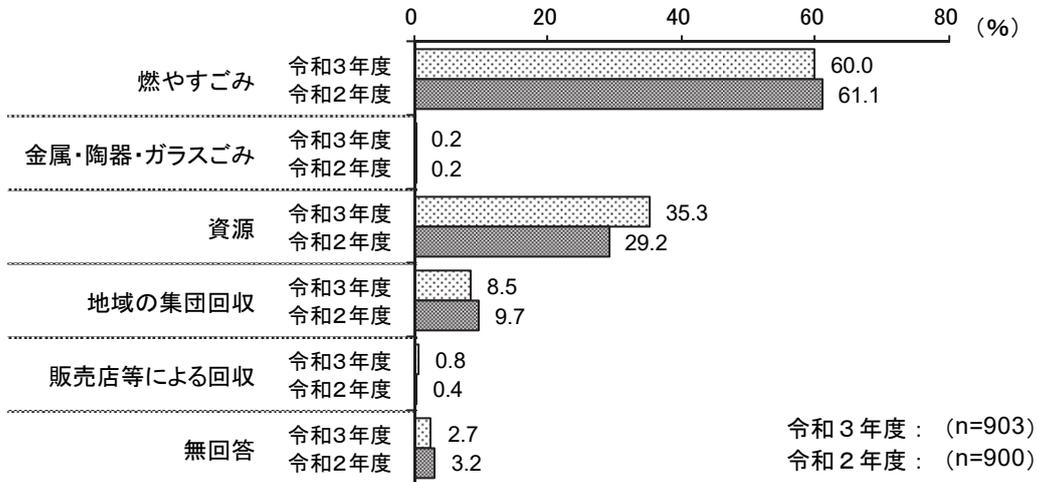


ごみ・資源の出し方についてそれぞれみると、『新聞・チラシ』では、「資源」（62.1%）が6割強で最も高くなっている。前回の調査結果（令和2年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

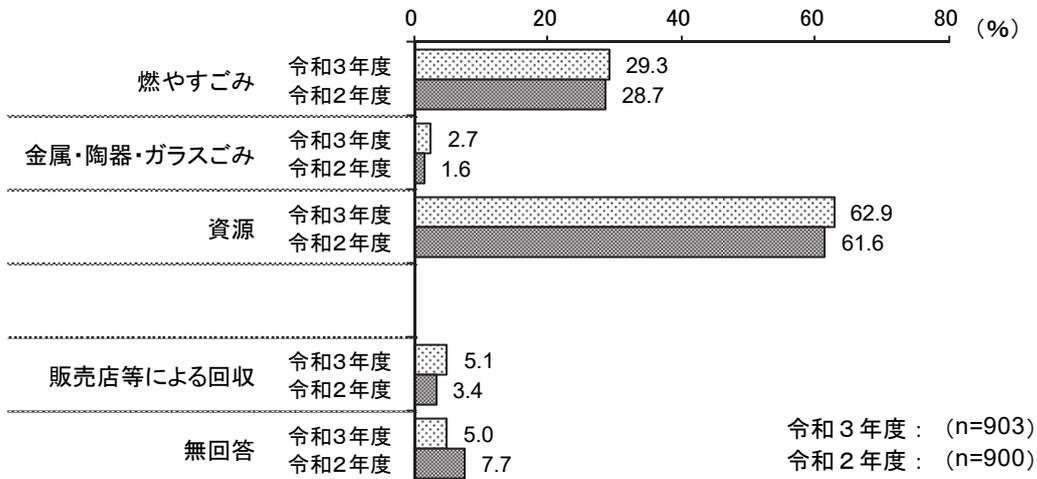
『雑誌・段ボール』では、「資源」（79.5%）が8割弱で最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に変化はみられない。（図1-4-1）

図1-4-2 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』・『(エ) 容器包装プラスチック』

『(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）』



『(エ) 容器包装プラスチック』

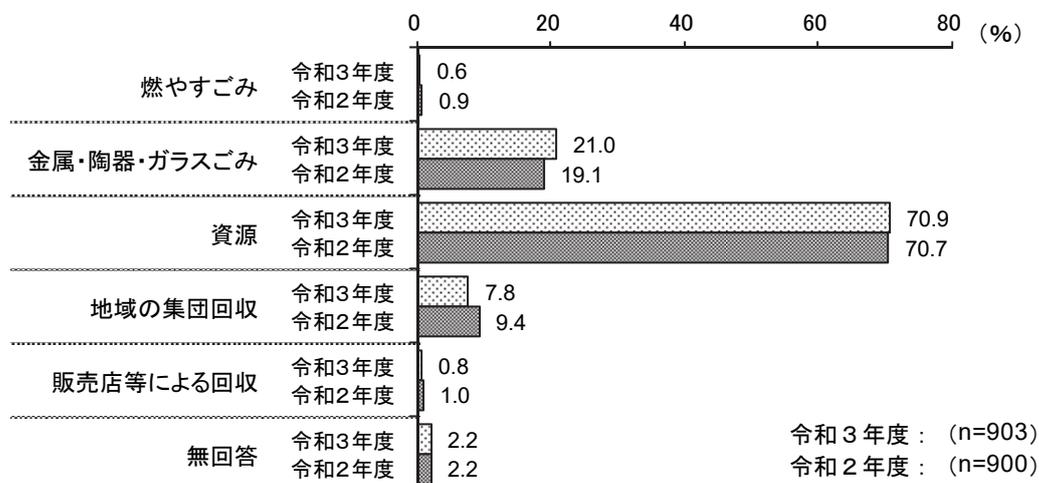


『雑がみ（菓子箱・包装紙等）』では、「燃やすごみ」（60.0%）が6割で最も高く、次いで「資源」（35.3%）が3割台半ばと続いている。前回の調査結果と比較すると、「資源」（35.3%）が前回（29.2%）から6.1ポイント高くなっている。

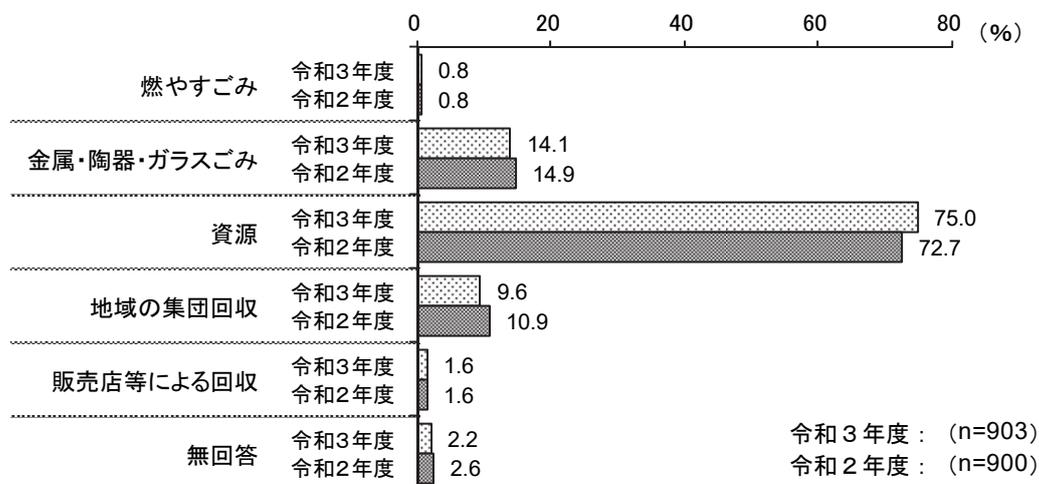
『容器包装プラスチック』では、「資源」（62.9%）が6割強で最も高く、次いで「燃やすごみ」（29.3%）が3割弱と続いている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図1-4-2）

図1-4-3 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(オ)びん』・『(カ)缶』

『(オ)びん』



『(カ)缶』

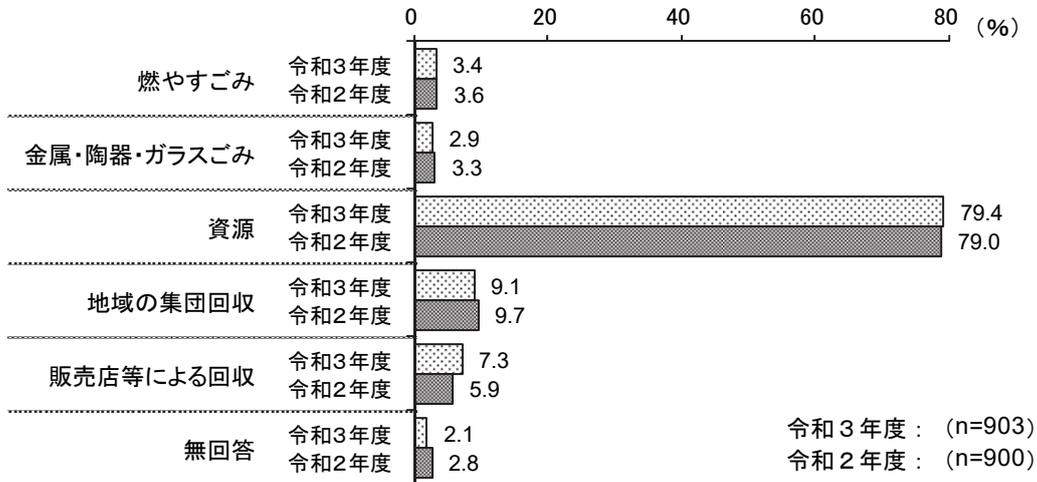


『びん』では、「資源」(70.9%)が約7割で最も高くなっている。次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(21.0%)が2割強となっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

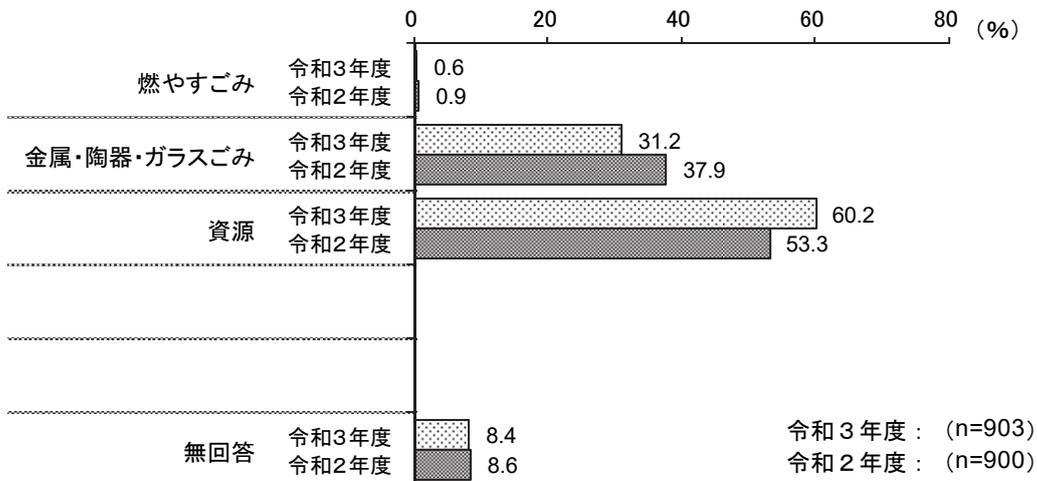
『缶』では、「資源」(75.0%)が7割台半ばで最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図1-4-3)

図1-4-4 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(キ) ペットボトル』・『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

『(キ) ペットボトル』



『(ク) スプレー缶・カセットボンベ』

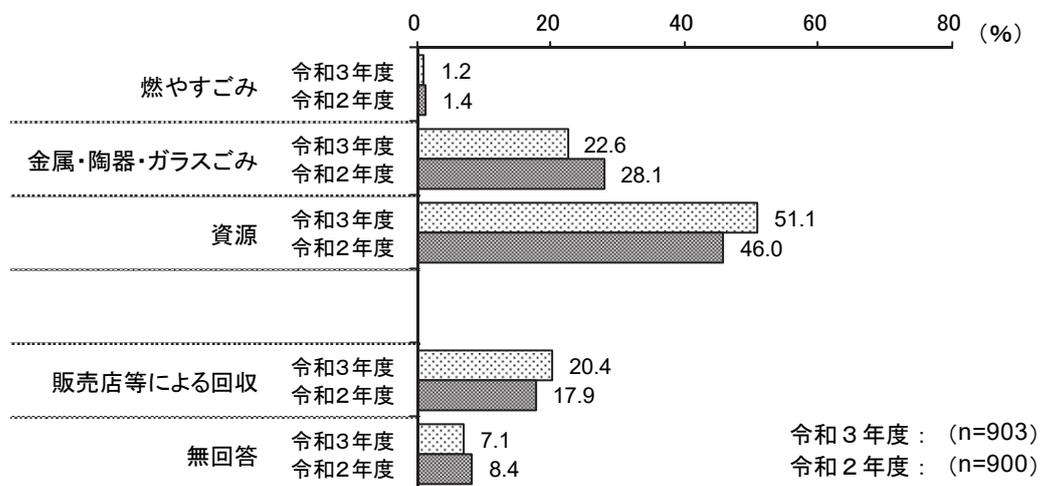


『ペットボトル』では、「資源」(79.4%)が8割弱で最も高くなっている。前回の調査結果と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

『スプレー缶・カセットボンベ』では、「資源」(60.2%)が約6割で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(31.2%)が3割強となっている。前回の調査結果と比較すると、「資源」(60.2%)が前回(53.3%)から6.9ポイント高くなっている。一方、「金属・陶器・ガラスごみ」(31.2%)が前回(37.9%)から6.7ポイント低くなっている。(図1-4-4)

図1-4-5 ごみ・資源の出し方（経年推移）
『(ケ) 乾電池』

『(ケ) 乾電池』



『乾電池』では、「資源」(51.1%)が5割強で最も高く、次いで「金属・陶器・ガラスごみ」(22.6%)が2割強、「販売店等による回収」(20.4%)が約2割となっている。前回の調査結果と比較すると、「資源」(51.1%)が前回(46.0%)から5.1ポイント高くなっている。一方、「金属・陶器・ガラスごみ」(22.6%)が前回(28.1%)から5.5ポイント低くなっている。

(図1-4-5)

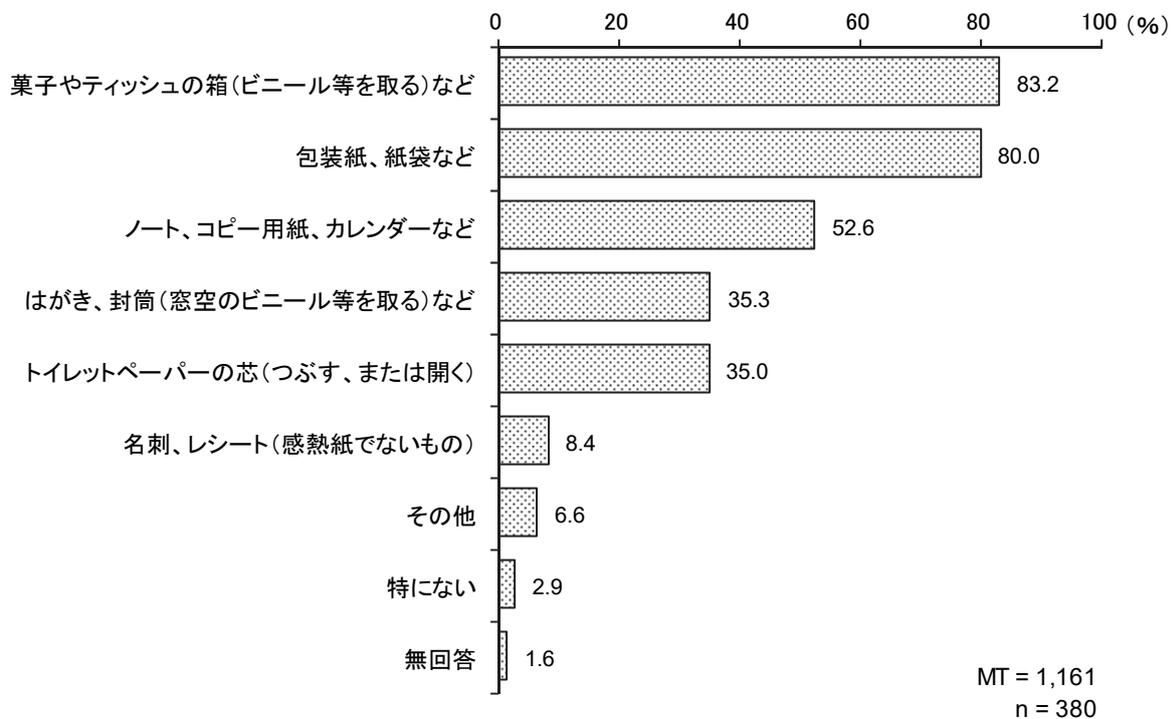
(5) 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ

◎「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」が8割台半ば近く、
「包装紙、紙袋など」が8割

問4-1 問4の(ウ) 雑がみ（菓子箱・包装紙等）で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。
雑がみのうち、資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。
（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=380)
1 菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など	83.2%
2 包装紙、紙袋など	80.0
3 はがき、封筒（窓空のビニール等を取る）など	35.3
4 ノート、コピー用紙、カレンダーなど	52.6
5 トイレtpペーパーの芯（つぶす、または開く）	35.0
6 名刺、レシート（感熱紙でないもの）	8.4
7 その他	6.6
8 特にない	2.9
無回答	1.6

図1-5 資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみ



資源（古紙）の日又は地域の集団回収に出している雑がみは、「菓子やティッシュの箱（ビニール等を取る）など」（83.2%）が8割台半ば近くで最も高く、次いで「包装紙、紙袋など」（80.0%）が8割、「ノート、コピー用紙、カレンダーなど」（52.6%）が5割強と続いている。（図1-5）

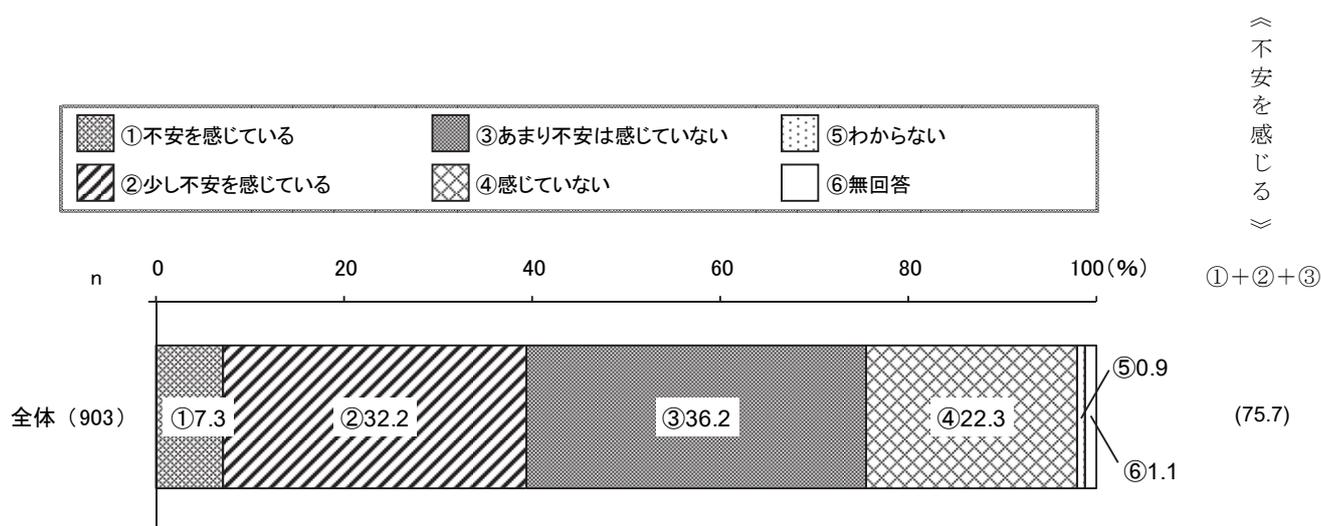
テーマ2 地域の安全について

（1）生活環境の中での犯罪等への不安

◎生活環境の中で犯罪等に関する《不安を感じる》が7割台半ば

問5 あなたは、現在お住いの生活環境の中で、犯罪等に関する不安を感じていますか。 (○は1つ)		(n=903)
1 不安を感じている		7.3%
2 少し不安を感じている		32.2
3 あまり不安は感じていない		36.2
4 感じていない		22.3
5 わからない		0.9
無回答		1.1

図2-1 生活環境の中での犯罪等への不安



生活環境の中での犯罪等への不安は、「あまり不安は感じていない」(36.2%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「少し不安を感じている」(32.2%)が3割強、「感じていない」(22.3%)が2割強となっている。また、《不安を感じる》(「不安を感じている」+「少し不安を感じている」+「あまり不安は感じていない」)(75.7%)が7割台半ばとなっている。(図2-1)

(2) 不安を感じる理由

◎「事件に関する報道が多いから」が4割強

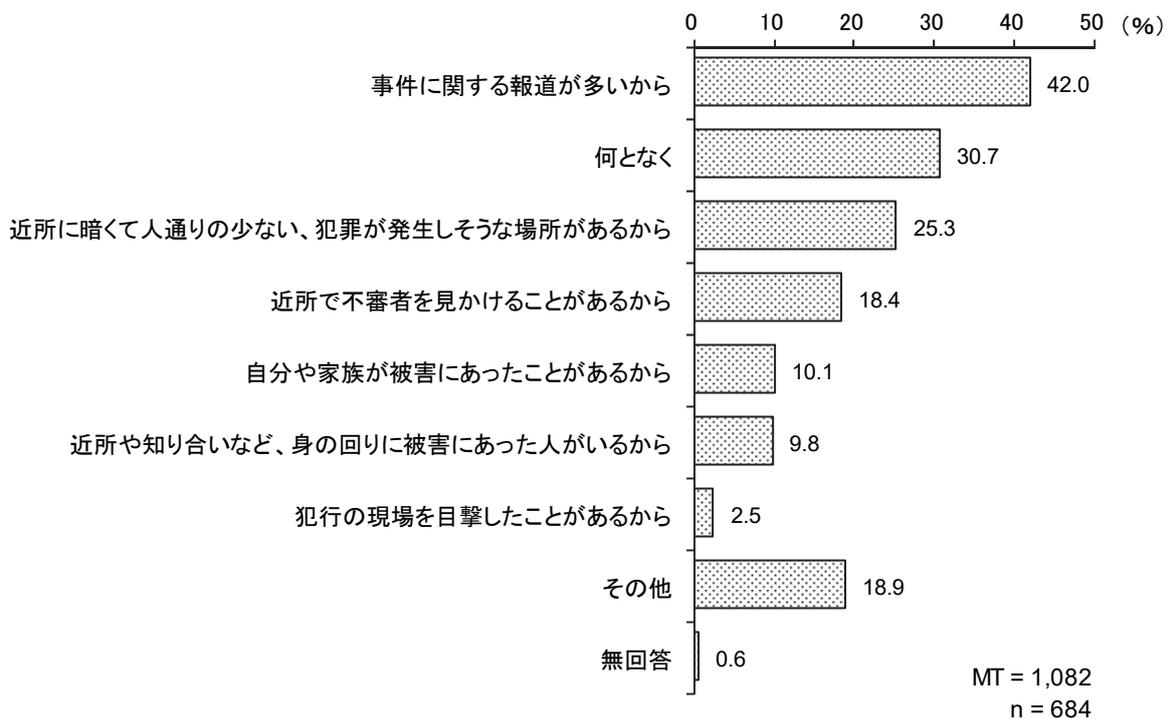
問5-1 問5で、「1」～「3」に○をした方にお伺いします。

不安を感じる理由は何ですか。(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

(n=684)

1 事件に関する報道が多いから	42.0%
2 近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから	25.3
3 近所や知り合いなど、身の回りに被害にあった人がいるから	9.8
4 近所で不審者を見かけることがあるから	18.4
5 自分や家族が被害にあったことがあるから	10.1
6 犯行の現場を目撃したことがあるから	2.5
7 何となく	30.7
8 その他	18.9
無回答	0.6

図2-2 不安を感じる理由



不安を感じる理由は、「事件に関する報道が多いから」(42.0%)が4割強で最も高く、次いで「何となく」(30.7%)が約3割、「近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから」(25.3%)が2割台半ばと続いている。(図2-2)

（3）不安を感じる犯罪等

◎「不審者の出没、女性や子どもに対する声かけ・つきまとい」が5割台半ば近く

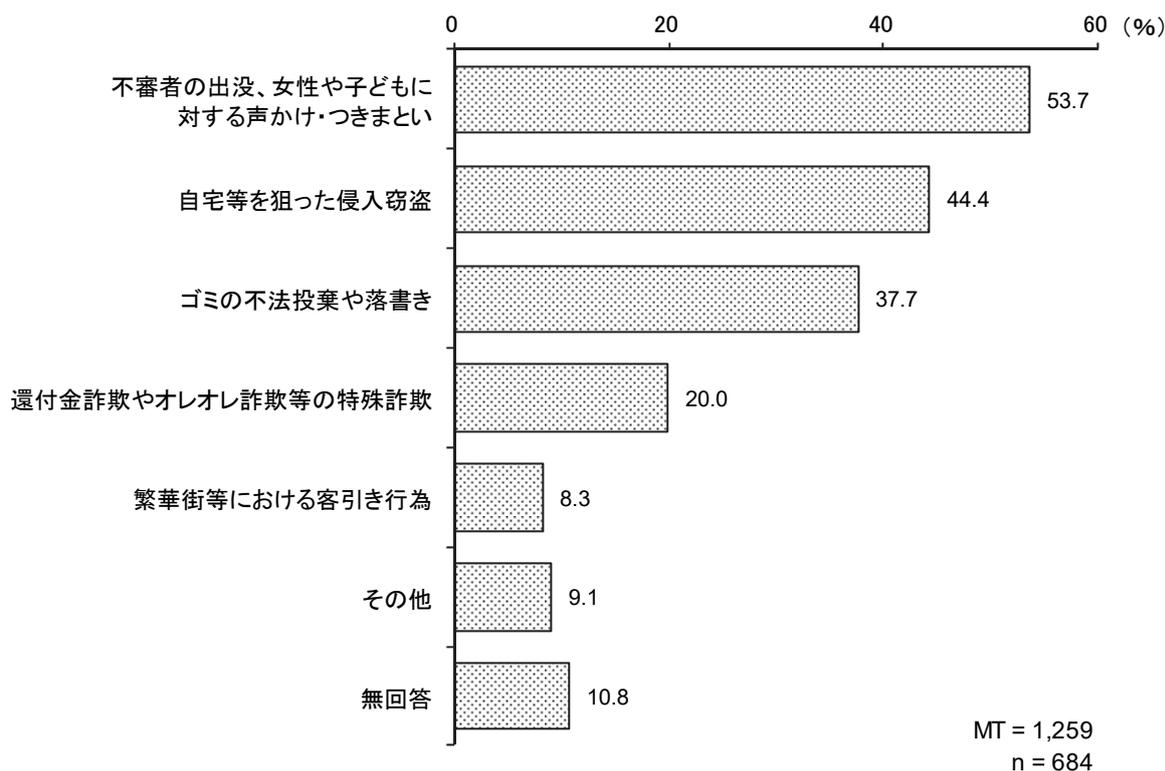
問5-2 問5で、「1」～「3」に○をした方にお伺いします。

現在感じている不安は、次のうちどの犯罪等に関するものですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=684)
1 還付金詐欺やオレオレ詐欺等の特殊詐欺	20.0%
2 自宅等を狙った侵入窃盗	44.4
3 不審者の出没、女性や子どもに対する声かけ・つきまとい	53.7
4 繁華街等における客引き行為	8.3
5 ゴミの不法投棄や落書き	37.7
6 その他	9.1
無回答	10.8

図2-3 不安を感じる犯罪等



不安を感じる犯罪等は、「不審者の出没、女性や子どもに対する声かけ・つきまとい」(53.7%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「自宅等を狙った侵入窃盗」(44.4%)が4割台半ば近く、「ゴミの不法投棄や落書き」(37.7%)が3割台半ばを超え、「還付金詐欺やオレオレ詐欺等の特殊詐欺」(20.0%)が2割と続いている。(図2-3)

(4) 期待する・効果的であると感じる区で実施している防犯活動

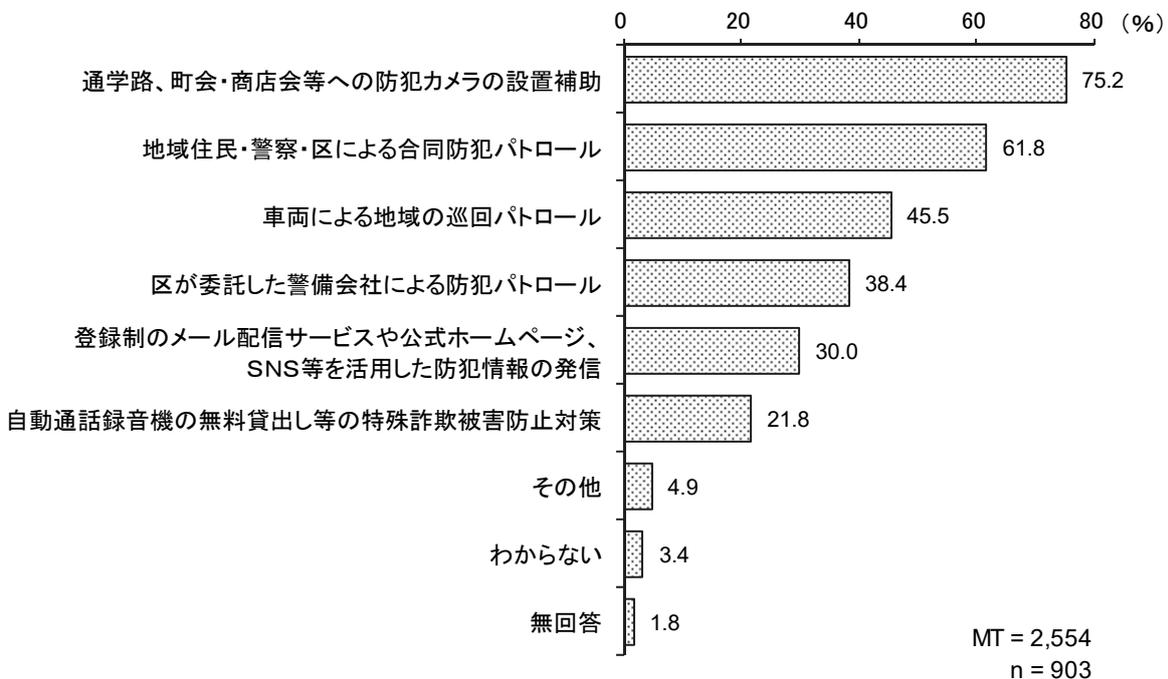
◎「通学路、町会・商店会等への防犯カメラの設置補助」は7割台半ば

問6 地域の皆様が実施している防犯活動と併行して、区でも様々な防犯活動を実施していません。区で実施している防犯活動のなかであなたが「期待する」あるいは「効果的である」と考える対策はどのようなものですか。

(あてはまるものにもいくつでも○をつけてください)

	(n=903)
1 登録制のメール配信サービスや公式ホームページ、SNS等を活用した防犯情報の発信	30.0%
2 地域住民・警察・区による合同防犯パトロール	61.8
3 区が委託した警備会社による防犯パトロール	38.4
4 車両による地域の巡回パトロール	45.5
5 通学路、町会・商店会等への防犯カメラの設置補助	75.2
6 自動通話録音機の無料貸出し等の特殊詐欺被害防止対策	21.8
7 その他	4.9
8 わからない	3.4
無回答	1.8

図2-4 期待する・効果的であると感じる区で実施している防犯活動



期待する・効果的であると感じる区で実施している防犯活動は、「通学路、町会・商店会等への防犯カメラの設置補助」(75.2%)が7割台半ばで最も高く、次いで「地域住民・警察・区による合同防犯パトロール」(61.8%)が6割強、「車両による地域の巡回パトロール」(45.5%)が4割台半ば、「区が委託した警備会社による防犯パトロール」(38.4%)が4割近くと続いている。

(図2-4)

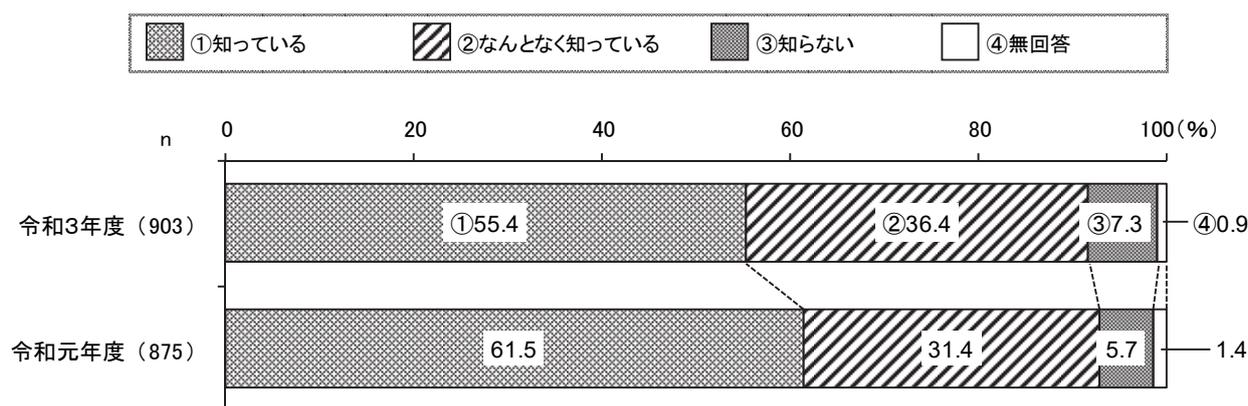
テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまちについて

（1）認知症の早期診断・早期治療が大切であることの理解度

◎「知っている」が5割台半ば

問7 認知症は、早期診断・早期治療を受けることで、進行を遅らせたり、症状を改善して生活上の障害を軽減することができると言われてています。	
あなたは、このことを知っていますか。（○は1つ）	
	(n=903)
1 知っている	55.4%
2 なんとなく知っている	36.4
3 知らない	7.3
無回答	0.9

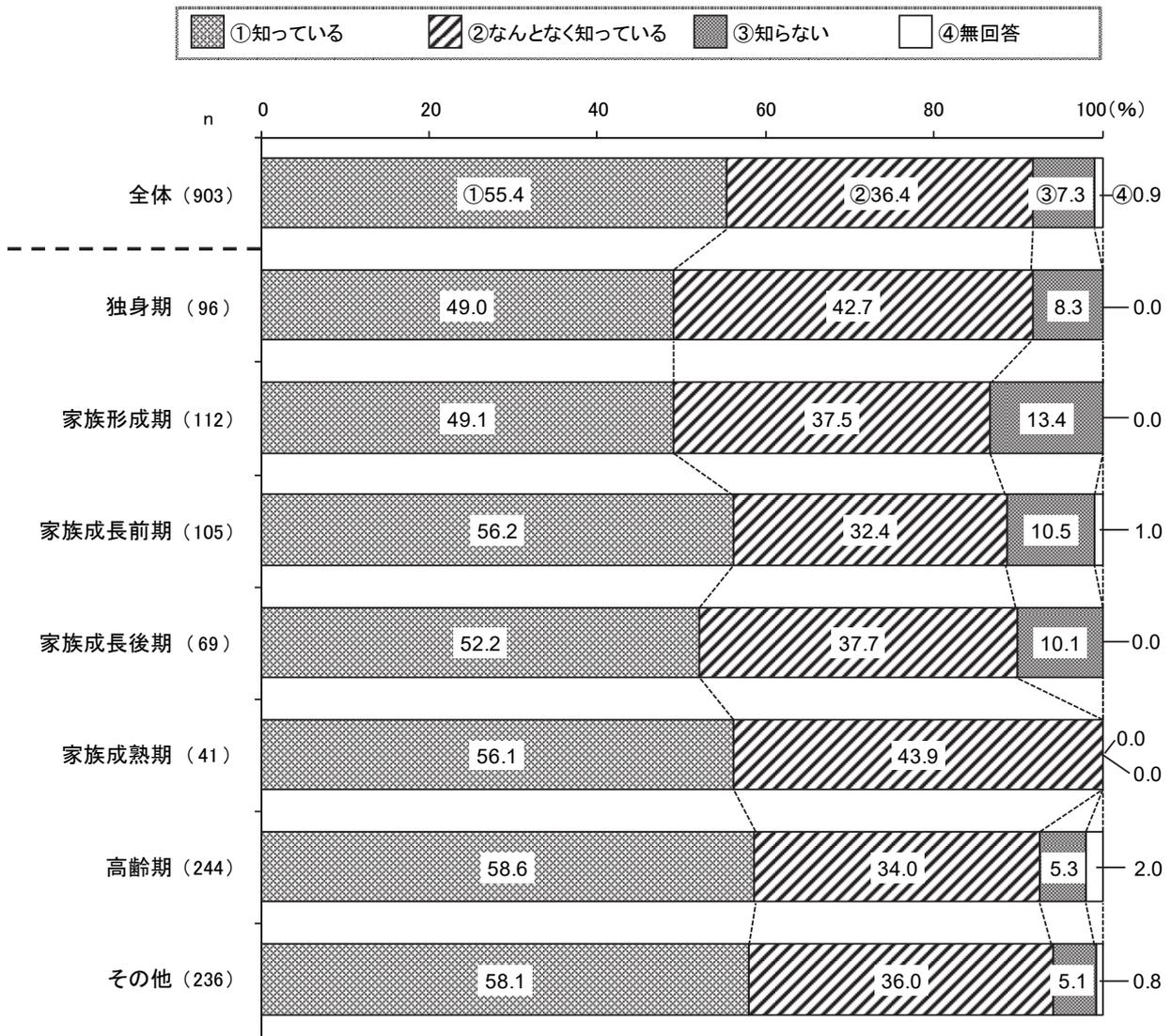
図3-1-1 認知症の早期診断・早期治療が大切であることの理解度
（経年推移）



認知症の早期診断・早期治療が大切であることを知っているか聞いたところ、「知っている」(55.4%)が5割台半ば、「なんとなく知っている」(36.4%)が3割台半ばを超えている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「知っている」(55.4%)が前回(61.5%)より6.1ポイント低くなっている。(図3-1-1)

図3-1-2 認知症の早期診断・早期治療が大切であることへの理解度
(ライフステージ別)



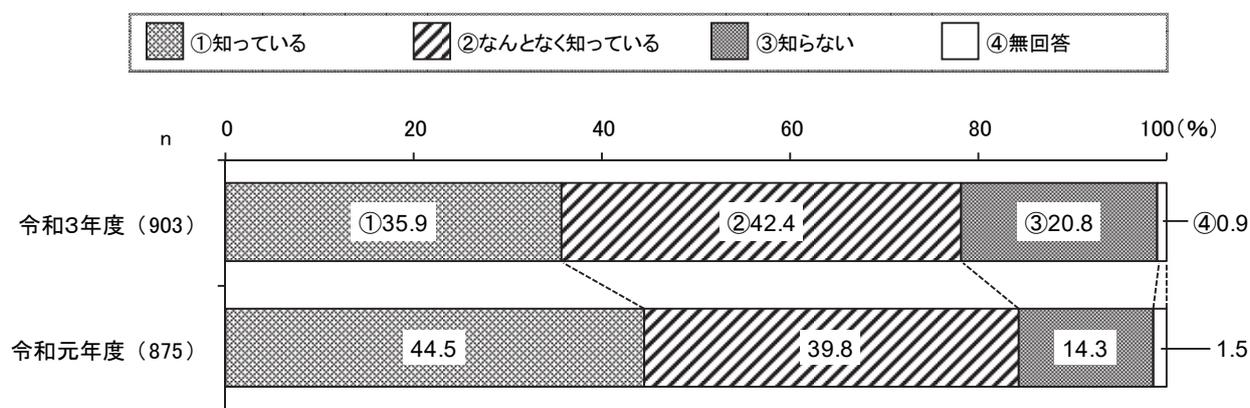
ライフステージ別でみると、「知っている」は独身期 (49.0%) および「家族形成期」(49.1%) がともに5割弱と低くなっている。(図3-1-2)

（2）認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度

◎「知っている」が3割台半ば

問8 認知症になっても、ご家族や周囲の方の理解と適切な対応によって、物とられ妄想や徘徊などの介護を困難にする症状を和らげることができると言われていました。あなたは、このことを知っていますか。（○は1つ）		(n=903)
1	知っている	35.9%
2	なんとなく知っている	42.4
3	知らない	20.8
	無回答	0.9

図3-2 認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことへの理解度（経年推移）



認知症は家族等の理解と対応で症状が和らぐことを知っているか聞いたところ、「知っている」(35.9%)が3割台半ば、「なんとなく知っている」(42.4%)が4割強、「知らない」(20.8%)が約2割となっている。

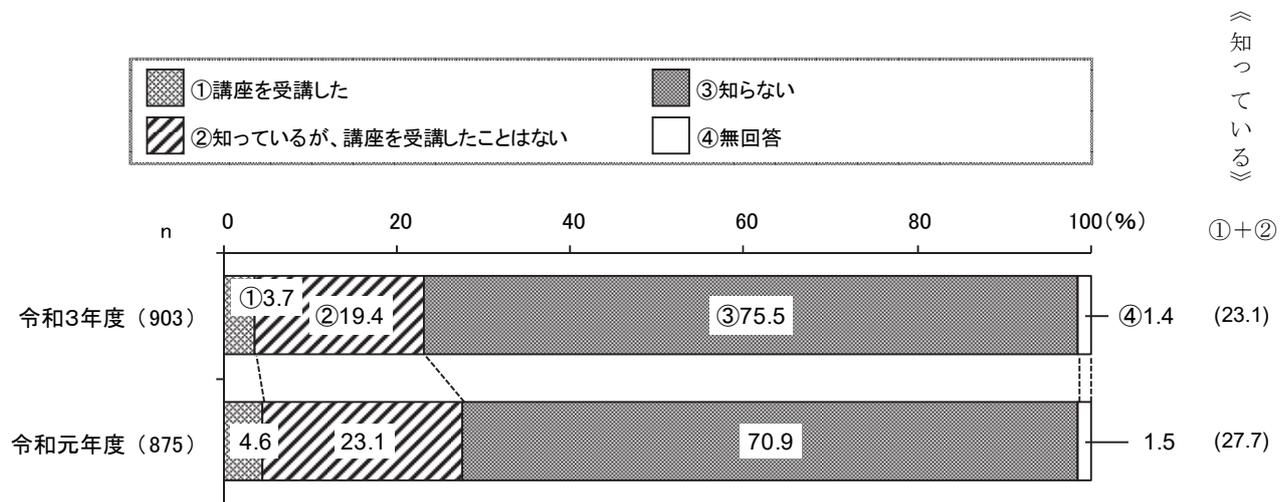
前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「知っている」(35.9%)が前回(44.5%)より8.6ポイント低くなっている。(図3-2)

(3) 認知症サポーター養成講座について

◎「講座を受講した」と「知っているが、講座を受講したことはない」を合わせた《知っている》が2割台半ば近く、一方「知らない」が7割台半ば

問9 区では、認知症について正しく理解し、本人やその家族を支援する認知症サポーターを養成する講座を開催しています。あなたは、この講座を知っていますか。(〇は1つ)		(n=903)
1 講座を受講した		3.7%
2 知っているが、講座を受講したことはない		19.4
3 知らない		75.5
無回答		1.4

図3-3 認知症サポーター養成講座について
(経年推移)



認知症サポーター養成講座を知っているか聞いたところ、「知らない」(75.5%)が7割台半ばで最も高くなっている。「講座を受講した」と「知っているが、講座を受講したことはない」を合わせた《知っている》(23.1%)は、2割台半ば近くとなっている。

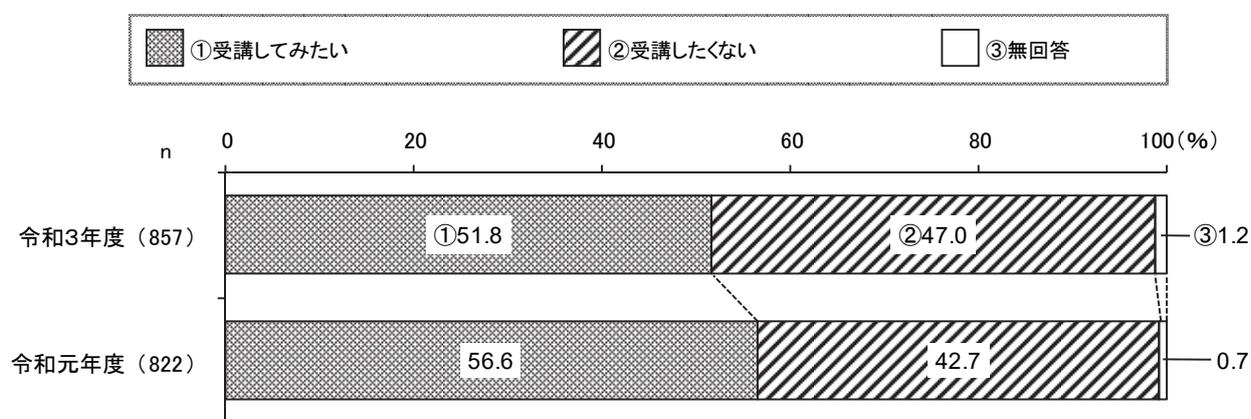
前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、《知っている》(23.1%)が前回(27.7%)より4.6ポイント低くなっている。(図3-3)

（４）認知症サポーター養成講座の受講希望について

◎認知症サポーター養成講座を「受講してみたい」が5割強

問9-1 問9で、「2」または、「3」に○をした方にお伺いします。		
あなたは、認知症サポーターを養成する講座を受講してみたいと思いますか。		
(○は1つ)		
		(n=857)
1	受講してみたい	51.8%
2	受講したくない	47.0
	無回答	1.2

図3-4 認知症サポーター養成講座の受講希望について
(経年推移)



認知症サポーター養成講座の受講希望について、「受講してみたい」(51.8%)が5割強、「受講したくない」(47.0%)が4割台半ばを超えている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「受講してみたい」(51.8%)が前回(56.6%)より4.8ポイント低くなっている。(図3-4)

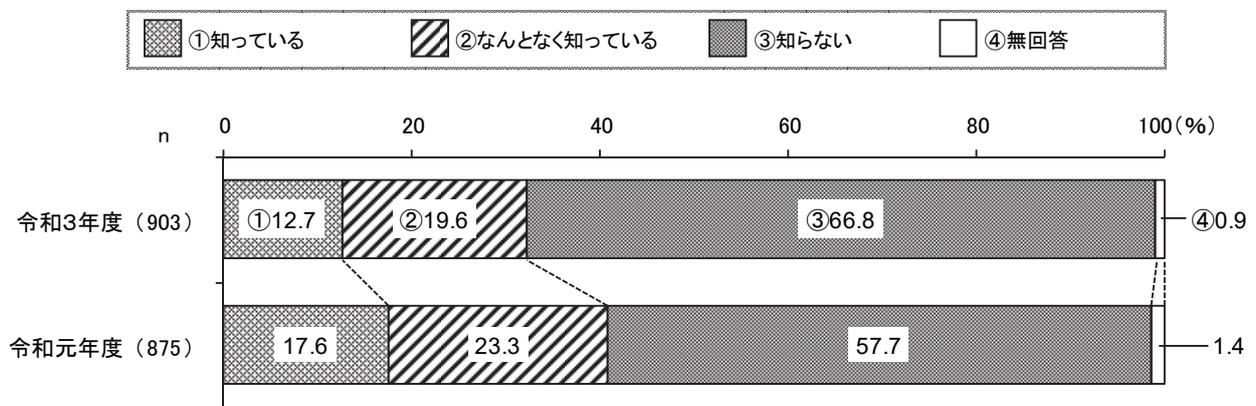
(5) 「認知症・もの忘れ相談医」について

◎ 「認知症・もの忘れ相談医」を「知っている」が1割強

問10 もの忘れが気になったり、認知症の症状があり困っているときなど、身近で相談できる「認知症・もの忘れ相談医」がいることを知っていますか。(〇は1つ)

	(n=903)
1 知っている	12.7%
2 なんとなく知っている	19.6
3 知らない	66.8
無回答	0.9

図3-5 「認知症・もの忘れ相談医」について
(経年推移)



「認知症・もの忘れ相談医」について、「知っている」(12.7%)が1割強、「なんとなく知っている」(19.6%)が2割弱、「知らない」(66.8%)が6割台半ばを超えている。

前回の調査結果(令和元年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「知っている」(12.7%)が前回(17.6%)より4.9ポイント低くなっている。(図3-5)

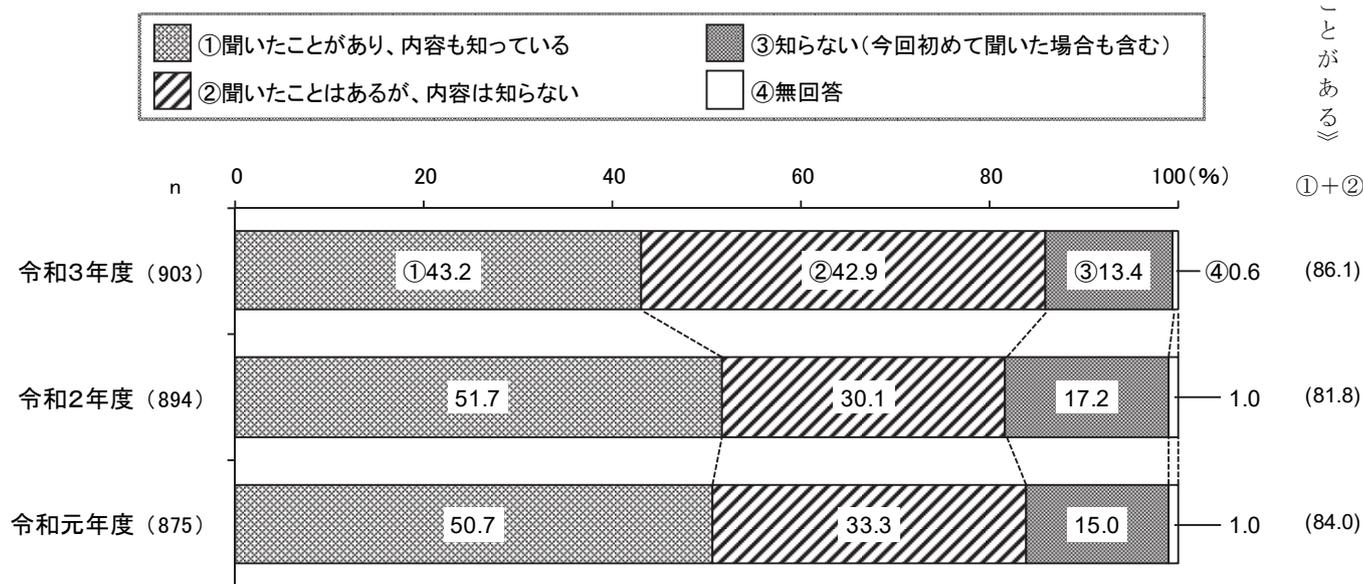
テーマ4 成年後見制度について

（1）成年後見制度の認知度

◎ 《聞いたことがある》が8割台半ばを超え

問11 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（○は1つ）		(n=903)
1	聞いたことがあります、内容も知っている	43.2%
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	42.9
3	知らない（今回初めて聞いた場合も含む）	13.4
	無回答	0.6

図4-1-1 成年後見制度の認知度
（経年推移）

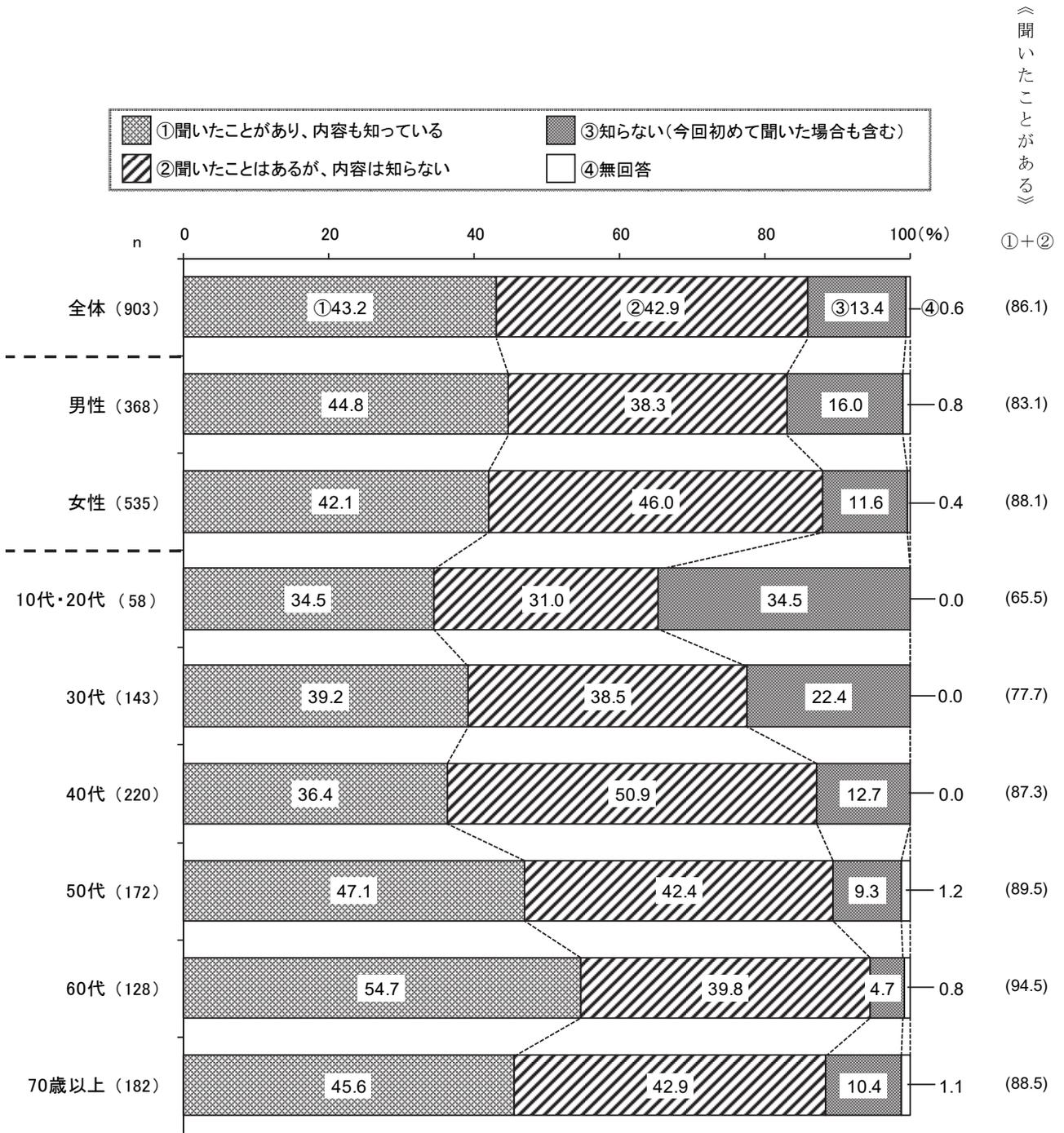


成年後見制度の認知度は、「聞いたことがあります、内容も知っている」（43.2%）が4割台半ば近く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（42.9%）が4割強、「知らない（今回初めて聞いた場合も含む）」（13.4%）が1割台半ば近くとなっている。

「聞いたことがあります、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた《聞いたことがある》（86.1%）は8割台半ばを超えている。

過去3年間の経年推移をみると、「聞いたことがあります、内容も知っている」（43.2%）は、令和2年度（51.7%）より8.5ポイント低くなっている。（図4-1-1）

図4-1-2 成年後見制度の認知度
(性別・年代別)



性別で見ると、《聞いたことがある》は女性（88.1%）が9割近くと、男性（83.1%）を5.0ポイント上回っている。

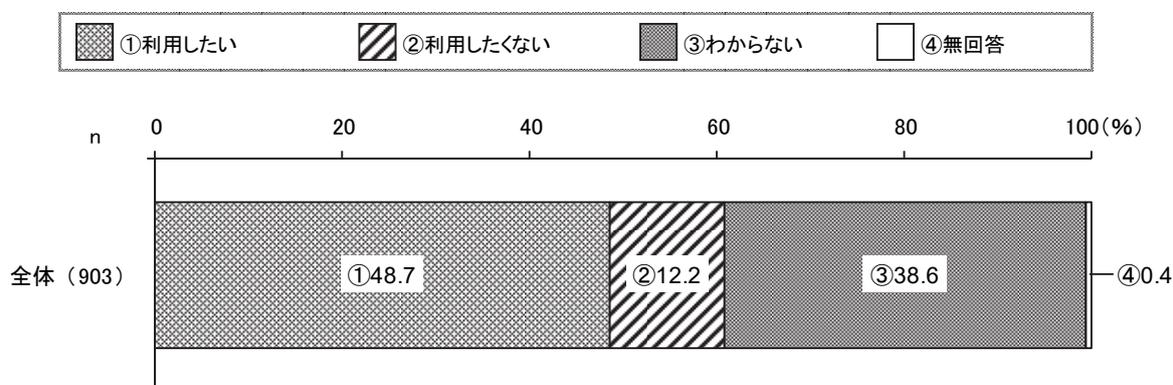
年代別で見ると、「知らない（今回初めて聞いた場合も含む）」は10代・20代（34.5%）が3割台半ば近くと、全体（13.4%）を21.1ポイント上回っている。（図4-1-2）

（2）成年後見制度の利用意向

◎成年後見制度を「利用したい」が5割近く

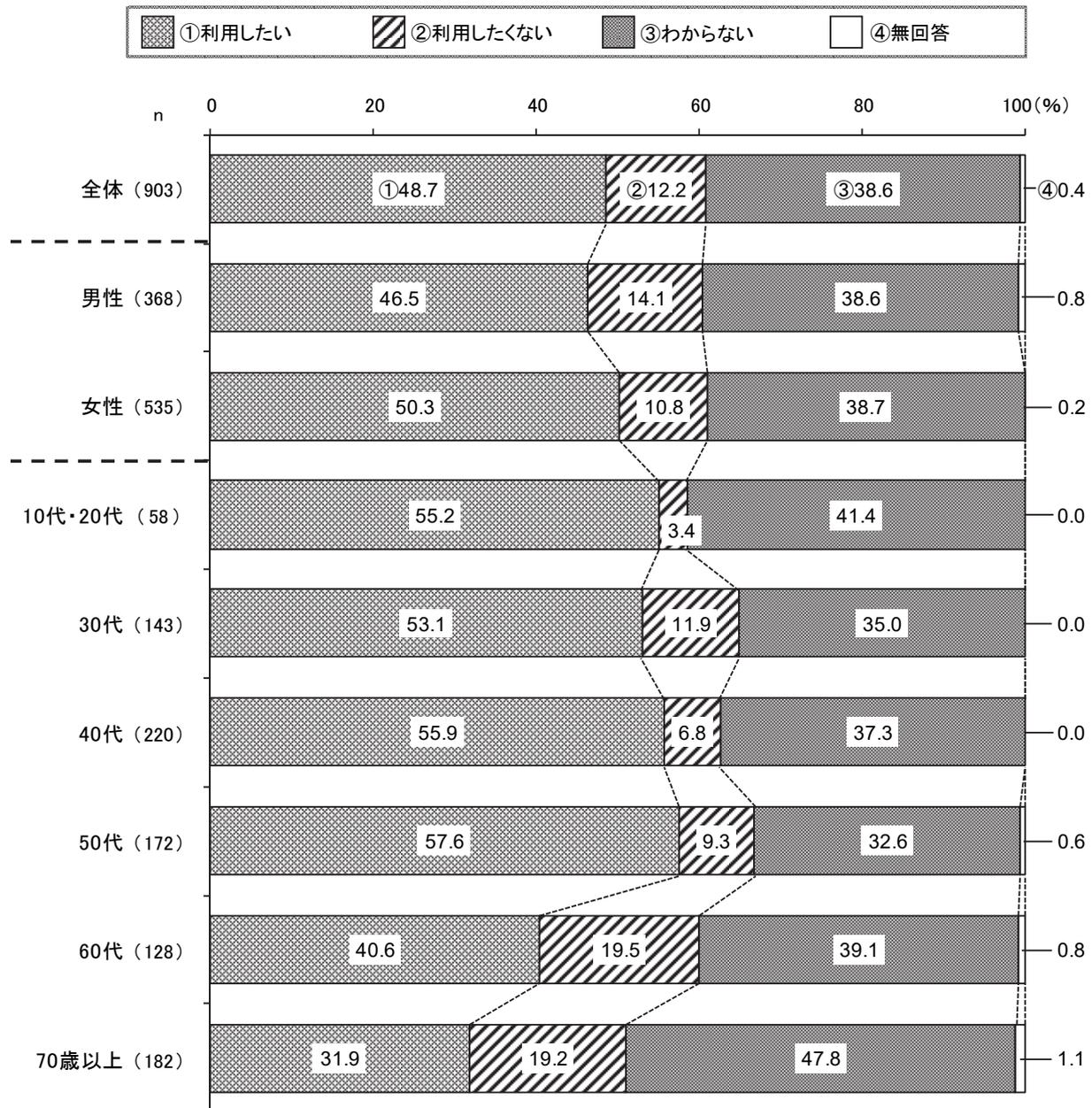
問12 あなたは、あなた自身や家族・親族が、認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は1つ）		(n=903)
1	利用したい	48.7%
2	利用したくない	12.2
3	わからない	38.6
	無回答	0.4

図4-2-1 成年後見制度の利用意向



成年後見制度の利用意向は、「利用したい」(48.7%)が5割近く、「利用したくない」(12.2%)が1割強、「わからない」(38.6%)が4割近くとなっている。(図4-2-1)

図4-2-2 成年後見制度の利用意向
(性別・年代別)



性別で見ると、「利用したい」は女性（50.3%）が約5割と、男性（46.5%）を3.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、「利用したくない」は60代（19.5%）が2割弱で最も高く、次いで70歳以上（19.2%）が2割弱となっている。（図4-2-2）

（3）後見人になってほしい人

◎後見人になってほしい人は「家族・親族」が8割弱

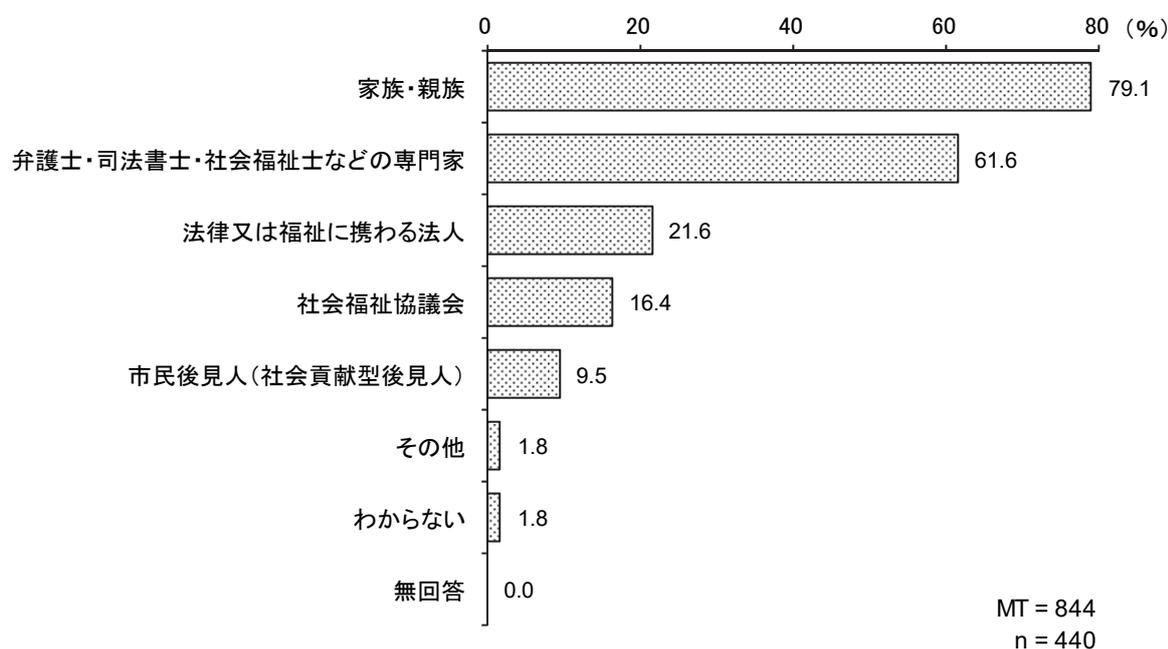
問12-1 問12で、「1」に○をした方にお伺いします。

成年後見制度を利用する際、どのような人に成年後見人等になってほしいと思いますか。すでに利用している人もお答えください。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=440)
1 家族・親族	79.1%
2 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家	61.6
3 市民後見人（社会貢献型後見人）	9.5
4 社会福祉協議会	16.4
5 法律又は福祉に携わる法人	21.6
6 その他	1.8
7 わからない	1.8
無回答	0.0

図4-3 後見人になってほしい人



後見人になってほしい人は、「家族・親族」（79.1%）が8割弱で最も高く、次いで「弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家」（61.6%）が6割強と続いている。（図4-3）

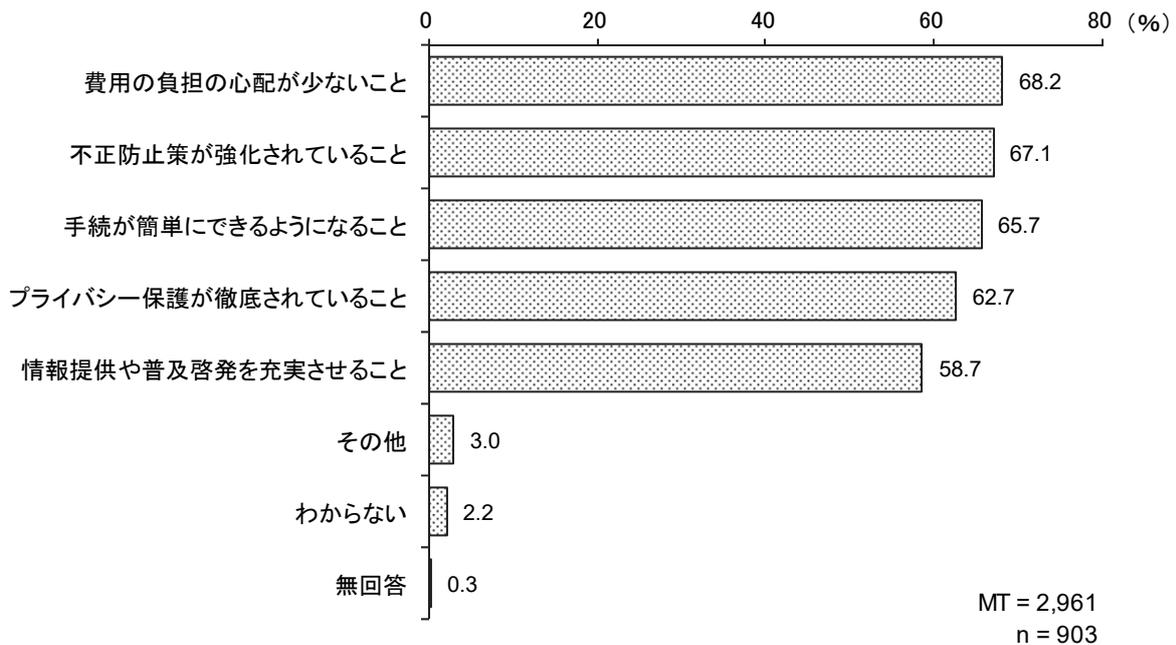
(4) 成年後見制度が利用されるために必要なこと

◎「費用の負担の心配が少ないこと」が7割近く

問13 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください)

	(n=903)
1 情報提供や普及啓発を充実させること	58.7%
2 費用の負担の心配が少ないこと	68.2
3 プライバシー保護が徹底されていること	62.7
4 手続きが簡単にできるようになること	65.7
5 不正防止策が強化されていること	67.1
6 その他	3.0
7 わからない	2.2
無回答	0.3

図4-4 成年後見制度が利用されるために必要なこと



成年後見制度が利用されるために必要なことは、「費用の負担の心配が少ないこと」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで「不正防止策が強化されていること」(67.1%)が6割台半ばを超え、「手続きが簡単にできるようになること」(65.7%)が6割台半ば、「プライバシー保護が徹底されていること」(62.7%)が6割強、「情報提供や普及啓発を充実させること」(58.7%)が6割近くとなっている。(図4-4)

（5）成年後見制度に関する周知方法

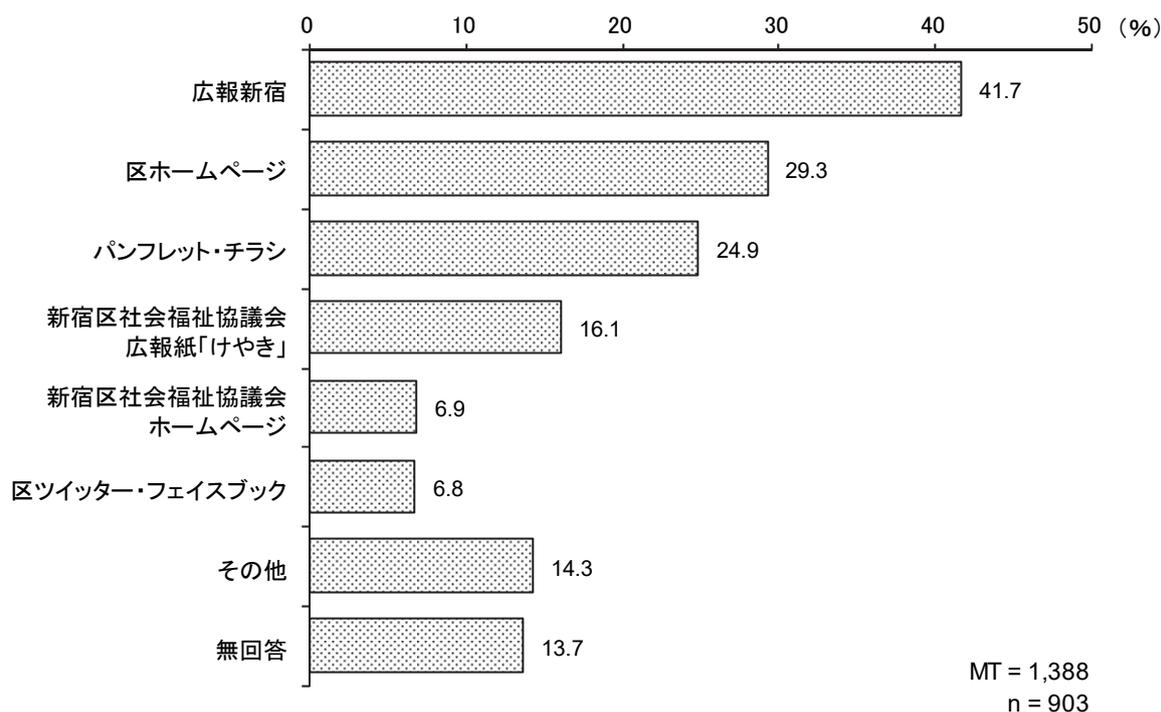
◎「広報新宿」が4割強

問14 現在、成年後見制度に関する周知方法として、知っているものは何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

	(n=903)
1 広報新宿	41.7%
2 パンフレット・チラシ	24.9
3 新宿区社会福祉協議会広報紙「けやき」	16.1
4 区ホームページ	29.3
5 新宿区社会福祉協議会ホームページ	6.9
6 区ツイッター・フェイスブック	6.8
7 その他	14.3
無回答	13.7

図4-5 成年後見制度に関する周知方法



成年後見制度に関する周知方法は、「広報新宿」（41.7%）が4割強で最も高く、次いで「区ホームページ」（29.3%）が3割弱、「パンフレット・チラシ」（24.9%）が2割台半ば近くと続いている。（図4-5）

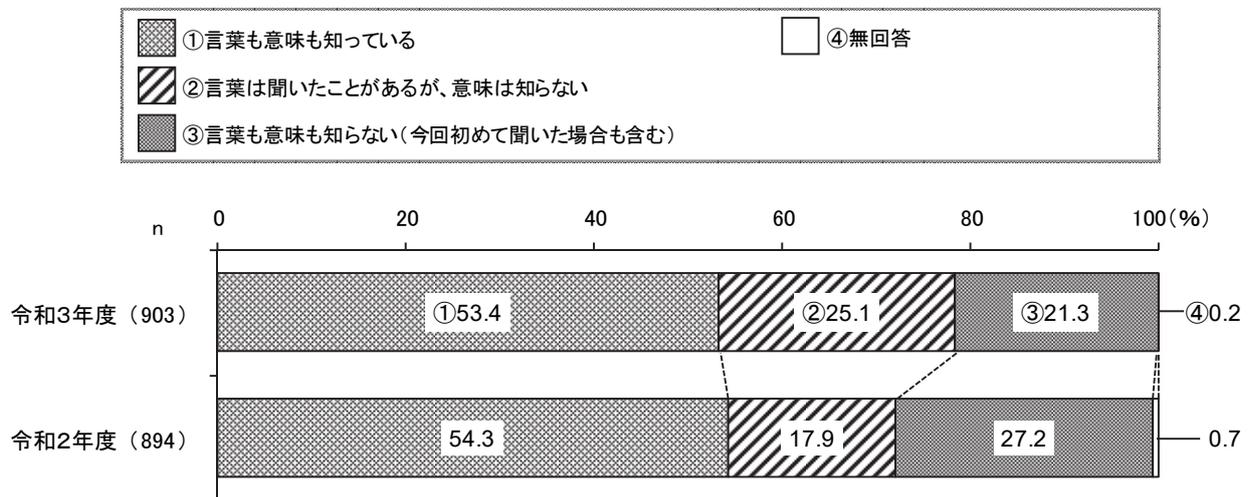
テーマ5 ユニバーサルデザインについて

(1) ユニバーサルデザインの認知状況

◎ユニバーサルデザインを「言葉も意味も知っている」が5割台半ば近く

問15 あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)		(n=903)
1	言葉も意味も知っている	53.4%
2	言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	25.1
3	言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)	21.3
	無回答	0.2

図5-1-1 ユニバーサルデザインの認知状況
(経年推移)

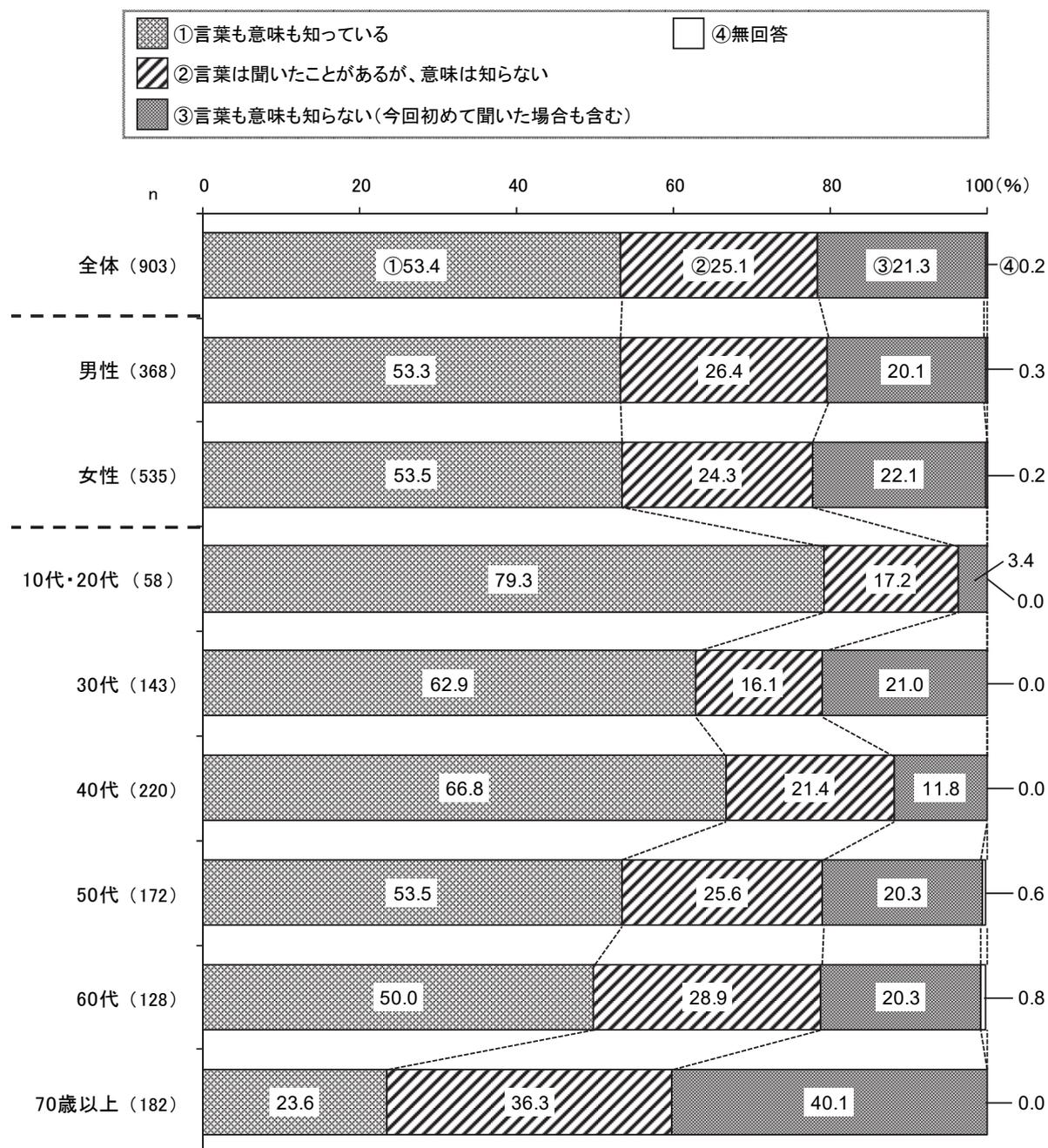


ユニバーサルデザインの認知状況は、「言葉も意味も知っている」(53.4%)が5割台半ば近く、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(25.1%)が2割台半ば、「言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)」(21.3%)が2割強となっている。

前回の調査結果(令和2年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(25.1%)が前回(17.9%)より7.2ポイント高くなっている。

(図5-1-1)

図5-1-2 ユニバーサルデザインの認知状況
（性別・年代別）



性別によって大きな差は見られない。

年代別でみると、「言葉も意味も知っている」では、10代・20代（79.3%）が8割弱と、全体（53.4%）を25.9ポイント上回っている。一方、「言葉も意味も知らない（今回初めて聞いた場合も含む）」では、70歳以上（40.1%）が約4割と、全体（21.3%）を18.8ポイント上回っている。（図5-1-2）

(2) ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの

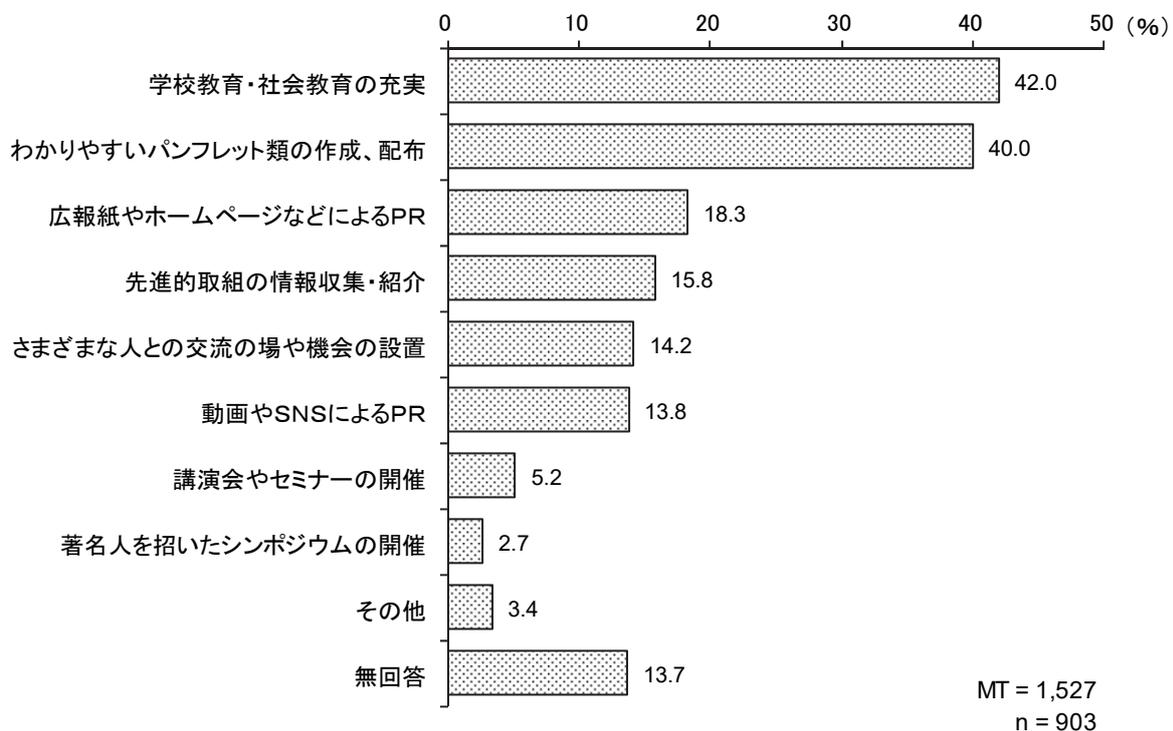
◎「学校教育・社会教育の充実」が4割強

問16 ユニバーサルデザインについて、あなたが重要だと思うものは何ですか。

(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

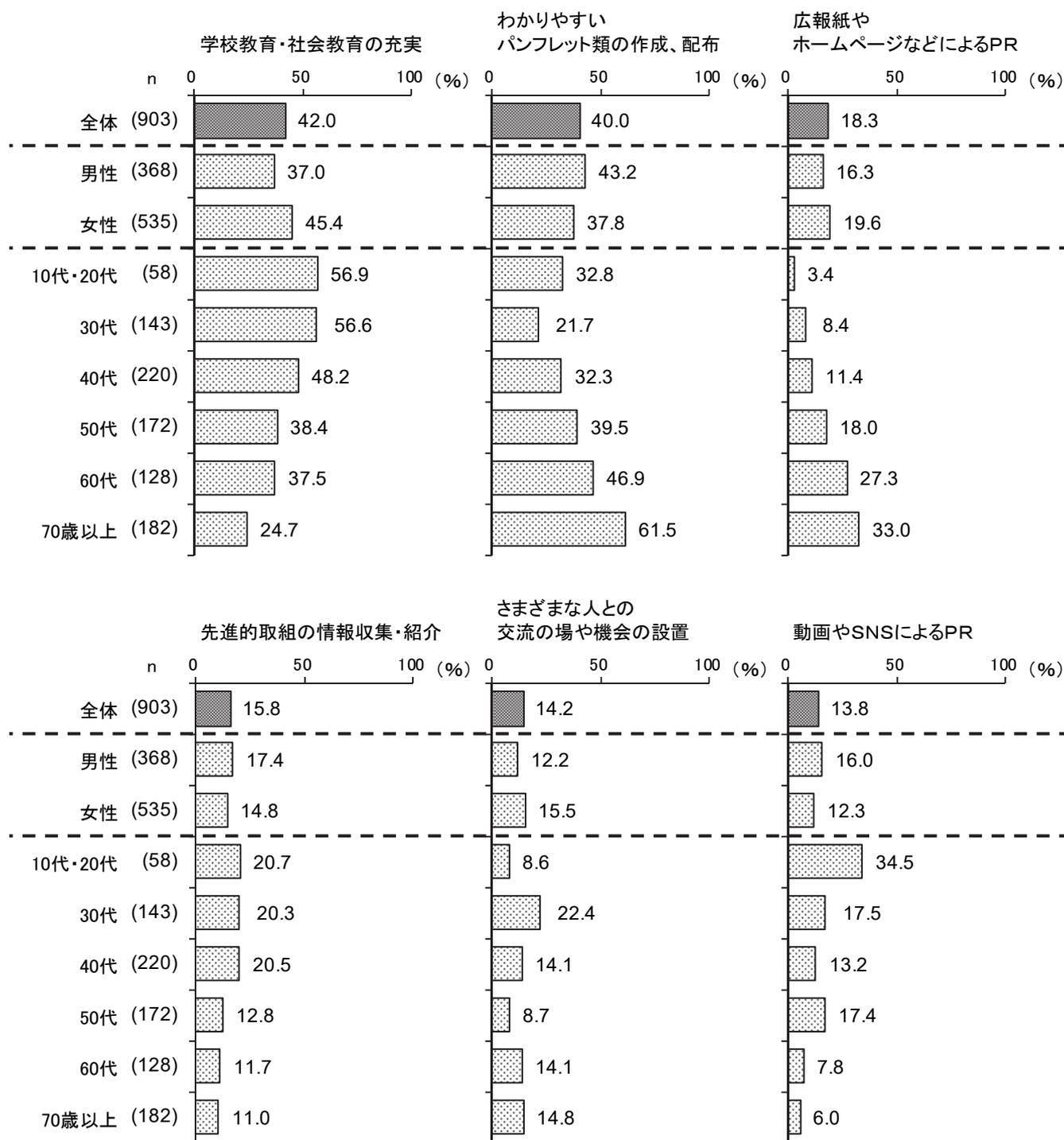
	(n=903)
1 わかりやすいパンフレット類の作成、配布	40.0%
2 講演会やセミナーの開催	5.2
3 学校教育・社会教育の充実	42.0
4 先進的取組の情報収集・紹介	15.8
5 さまざまな人との交流の場や機会の設置	14.2
6 広報紙やホームページなどによるPR	18.3
7 動画やSNSによるPR	13.8
8 著名人を招いたシンポジウムの開催	2.7
9 その他	3.4
無回答	13.7

図5-2-1 ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの



ユニバーサルデザインについて、重要だと思うものは、「学校教育・社会教育の充実」(42.0%)が4割強で最も高く、次いで「わかりやすいパンフレット類の作成、配布」(40.0%)が4割と続いている。(図5-2-1)

図5-2-2 ユニバーサルデザインについて、重要だと思うもの
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、「学校教育・社会教育の充実」は女性（45.4%）が4割台半ばと、男性（37.0%）を8.4ポイント上回っている。

年代別で見ると、「わかりやすいパンフレット類の作成、配布」では、70歳以上（61.5%）が6割強と、全体（40.0%）を21.5ポイント上回っている。「動画やSNSによるPR」では、10代・20代（34.5%）が3割台半ば近くと、全体（13.8%）を20.7ポイント上回っている。

（図5-2-2）

(3) ユニバーサルデザインについて区に期待すること

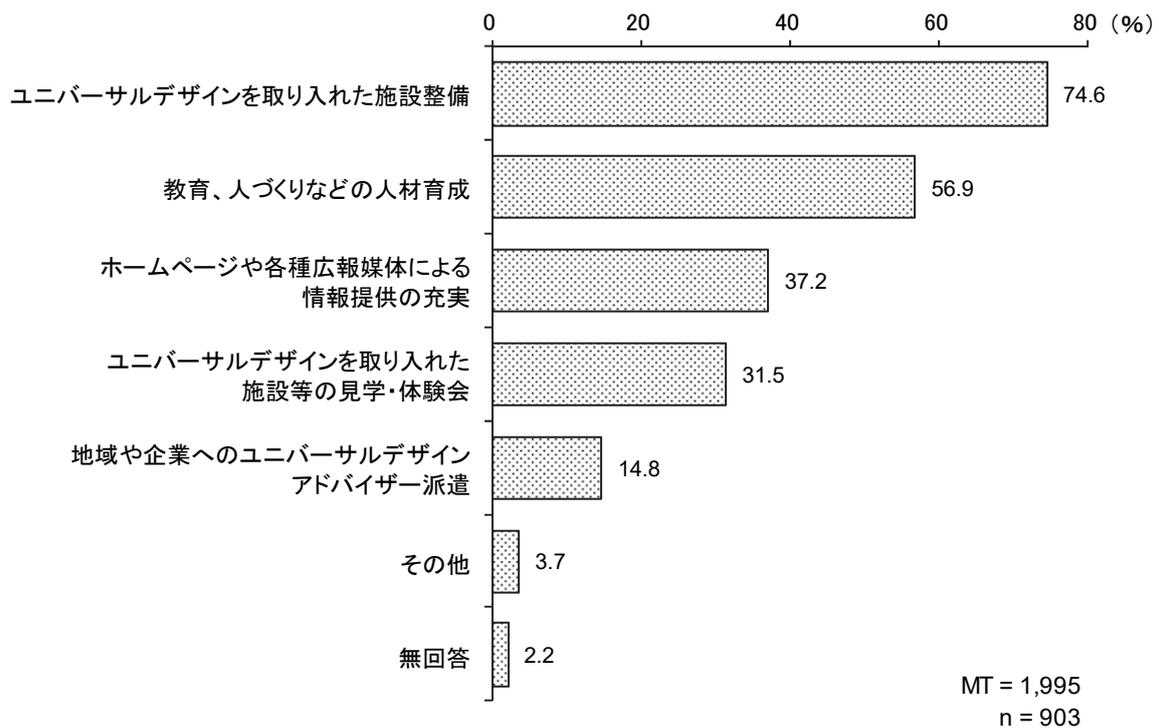
◎「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」が7割台半ば近く

問17 ユニバーサルデザインについて、あなたが区に期待することは何ですか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=903)
1 ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備	74.6%
2 教育、人づくりなどの人材育成	56.9
3 ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実	37.2
4 ユニバーサルデザインを取り入れた施設等の見学・体験会	31.5
5 地域や企業へのユニバーサルデザインアドバイザー派遣	14.8
6 その他	3.7
無回答	2.2

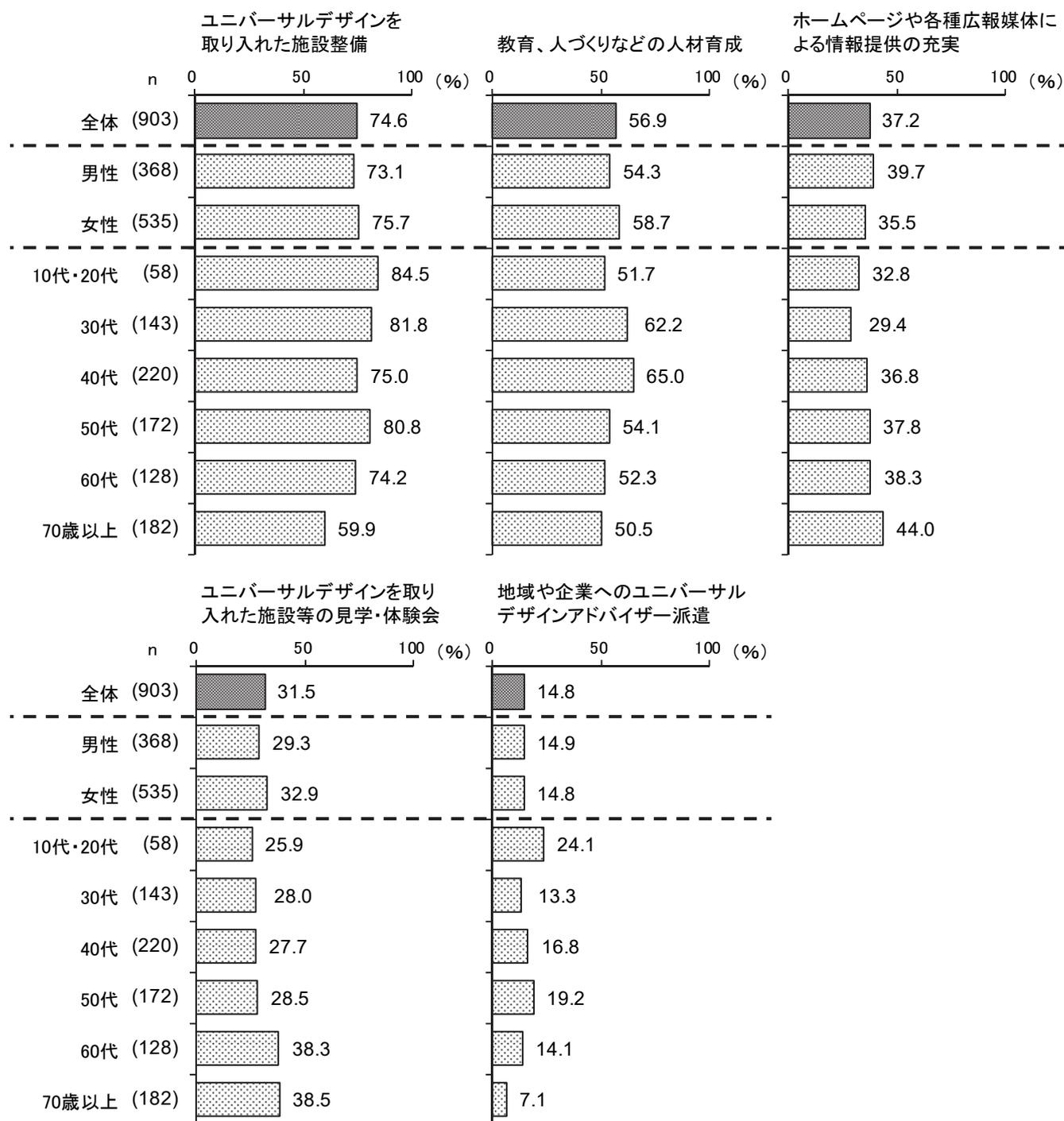
図5-3-1 ユニバーサルデザインについて区に期待すること



ユニバーサルデザインについて区に期待することは、「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」(74.6%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「教育、人づくりなどの人材育成」(56.9%)が5割台半ばを超え、「ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実」(37.2%)が3割台半ばを超え、「ユニバーサルデザインを取り入れた施設等の見学・体験会」(31.5%)が3割強と続いている。(図5-3-1)

図5-3-2 ユニバーサルデザインについて区に期待すること

（性別・年代別）上位5項目



上位5項目について、性別でみると、「教育、人づくりなどの人材育成」は女性（58.7%）が6割近くと、男性（54.3%）を4.4ポイント上回っている。一方、「ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実」は男性（39.7%）が4割弱と、女性（35.5%）を4.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備」では、10代・20代（84.5%）が8割台半ば近くと、全体（74.6%）を9.9ポイント上回っている。また、「地域や企業へのユニバーサルデザインアドバイザー派遣」では、10代・20代（24.1%）が2割台半ば近くと、全体（14.8%）を9.3ポイント上回っている。（図5-3-2）

Ⅲ 資料（調査票）

令和3年度 新宿区区政モニターアンケート 第2回

- テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて
- テーマ2 地域の安全について
- テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまちについて
- テーマ4 成年後見制度について
- テーマ5 ユニバーサルデザインについて

テーマ3に関する資料を同封しています。ご回答の前に一読ください。

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの**場合や、**あてはまるもの全てに○印**をつけていただく場合があります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和3年9月17日（金）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500
E-Mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。



テーマ1 ごみの減量とリサイクルについて

新宿区は、「環境への負荷を少なくし、未来の環境を創るまち」の実現に向け、資源循環型社会の構築を目指しています。

ごみの発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）、再生利用（リサイクル：Recycle）による「3R活動」の推進が重要になり、ごみとして処分する場合も、適正に分別する必要があります。

3R活動や食品ロス（※）の削減、資源・ごみの分別状況などをおたずねし、今後の普及啓発活動の向上に役立てていきたいと思えます。

（※）食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、例えば、消費期限・賞味期限切れの食品や食べ残し、調理の際に過剰に除去した食べられる部分などを指します。

問1 以下の活動（「3R活動」）の中であなたが実際に行っているものはありますか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

【リデュース】	1 必要な分だけ購入する、長く使えるものを購入する 2 買い物の際には、過剰包装を断ったり、マイバッグを持参したりする 3 食品ロスを出さないような取組を行っている 4 使い捨てになるものは、なるべく購入しない
【リユース】	5 詰め替え用商品を買う 6 リサイクルショップ・フリーマーケットを利用する 7 リース・レンタルを活用する 8 修理、リフォームして使う
【リサイクル】	9 ごみを正しく分別し、資源となるものは資源回収に出す 10 トイレットペーパーなどは、再生品を選んで購入する
	11 その他（ ） 12 特にしていない

問2 あなたは買い物の際に、マイバッグを持参しますか。（○は1つ）

- 1 毎回持参する
- 2 持参しないこともあるが、持参することの方が多い
- 3 持参することと持参しないことが半々くらい
- 4 持参することもあるが、持参しないことの方が多い
- 5 ほとんど持参しない

問3 食品ロスを減らすために、行っていることはありますか。

(あてはまるものはいくつでも○をつけてください)

- | | |
|----|---|
| 1 | 買い物をする前に、冷蔵庫や収納庫の在庫をメモするなど必要な食品を確認する |
| 2 | 売り場では、すぐに消費する食品は手前に陳列されている商品から購入する |
| 3 | 食品は、ばら売りや量り売りなどを利用し、必要な食材をこまめに購入する |
| 4 | 家庭では、食べ切る量を調理して、食べ残しをしないようにする |
| 5 | 野菜や果物の皮を薄くむいたり、食材として活用して生ごみを減らす |
| 6 | 食べ切れなかった場合は、他の料理に作り替えるなど献立や調理方法を工夫する |
| 7 | 外出時は、食べ切る量（小盛りメニュー等）を選ぶ |
| 8 | フードドライブ（※）として食品を提供したことがある |
| 9 | その他（ ） |
| 10 | 特になし |

(※) フードドライブとは、家庭等での未利用の食品（賞味期限内であるなど一定の条件があります）を回収し、食品を必要とする施設や家庭に配布することです。

問4 新宿区では、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル、スプレー缶・カセットボンベ、乾電池を「資源・ごみ集積所」で回収しています。また、地域や集合住宅における集団回収のほか、販売店等でも一部の品目を回収しています。あなたは下記の品目をどのように出していますか。

(ア～ケそれぞれで、あてはまるものはいくつでも○をつけてください)

	燃やすごみ (週2回)	金属・陶器・ ガラスごみ (月2回)	資 源 (週1回)	地域の 集団回収	販売店等による回収(※)
ア 新聞・チラシ	1	2	3	4	5
イ 雑誌・段ボール	1	2	3	4	5
ウ 雑がみ(菓子箱・包装紙等)	1	2	3	4	5
エ 容器包装プラスチック	1	2	3	—	5
オ びん	1	2	3	4	5
カ 缶	1	2	3	4	5
キ ペットボトル	1	2	3	4	5
ク スプレー缶・カセットボンベ	1	2	3	—	—
ケ 乾電池	1	2	3	—	5

(※) 販売店等による回収とは、スーパーマーケット等での缶、トレイ、ペットボトルの店頭回収のほか、新聞販売店等による新聞紙の回収、生協等による宅配時の容器回収などを含みます。

問4-1 問4の(ウ) 雑がみ(菓子箱・包装紙等)で、「3」又は「4」に○をした方にお伺いします。

雑がみのうち、資源(古紙)の日又は地域の集団回収に出しているのはどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|---|------------------------|---|
| 1 | 菓子やティッシュの箱(ビニール等を取る)など | |
| 2 | 包装紙、紙袋など | |
| 3 | はがき、封筒(窓空のビニール等を取る)など | |
| 4 | ノート、コピー用紙、カレンダーなど | |
| 5 | トイレットペーパーの芯(つぶす、または開く) | |
| 6 | 名刺、レシート(感熱紙でないもの) | |
| 7 | その他(|) |
| 8 | 特にない | |

テーマ2 地域の安全について

過去に区が実施した「区政モニターアンケート」や「区民意識調査」等において、「防犯・地域安全対策」が区政への要望の上位を占めていました。このことを踏まえて、区民の皆様が不安に感じている要因をより明確にし、「安全で安心な暮らしやすいまちの実現」に向けた効果的な防犯対策に繋げていきます。

問5 あなたは、現在お住いの生活環境の中で、犯罪等に関する不安を感じていますか。

(〇は1つ)

- 1 不安を感じている
- 2 少し不安を感じている
- 3 あまり不安は感じていない
- 4 感じていない
- 5 わからない

→ 問5-1、問5-2へ

問5-1 問5で、「1」～「3」に〇をした方にお伺いします。

不安を感じる理由は何ですか。(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

- 1 事件に関する報道が多いから
- 2 近所に暗くて人通りの少ない、犯罪が発生しそうな場所があるから
- 3 近所や知り合いなど、身の回りに被害にあった人がいるから
- 4 近所で不審者を見かけることがあるから
- 5 自分や家族が被害にあったことがあるから
- 6 犯行の現場を目撃したことがあるから
- 7 何となく
- 8 その他 ()

問5-2 問5で、「1」～「3」に〇をした方にお伺いします。

現在感じている不安は、次のうちのどの犯罪等に関するものですか。

(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

- 1 還付金詐欺やオレオレ詐欺等の特殊詐欺
- 2 自宅等を狙った侵入窃盗
- 3 不審者の出没、女性や子どもに対する声かけ・つきまとい
- 4 繁華街等における客引き行為
- 5 ゴミの不法投棄や落書き
- 6 その他 ()

問6 地域の皆様が実施している防犯活動と併行して、区でも様々な防犯活動を実施しています。区で実施している防犯活動のなかであなたが「期待する」あるいは「効果的である」と考える対策はどのようなものですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 登録制のメール配信サービスや公式ホームページ、SNS等を活用した防犯情報の発信 | |
| 2 | 地域住民・警察・区による合同防犯パトロール | |
| 3 | 区が委託した警備会社による防犯パトロール | |
| 4 | 車両による地域の巡回パトロール | |
| 5 | 通学路、町会・商店会等への防犯カメラの設置補助 | |
| 6 | 自動通話録音機の無料貸出し等の特殊詐欺被害防止対策 | |
| 7 | その他 (|) |
| 8 | わからない | |

テーマ3 認知症になっても安心して暮らせるまち について

超高齢社会となった日本では認知症高齢者は増加しており、新宿区においても、介護保険の要支援・要介護認定を受けている人の2人に1人は、見守りや支援が必要な認知症の症状があるという現状です。

新宿区は、「認知症になっても安心して暮らせるまち」を区民の皆様と共につくっていくことを目指しています。そのために認知症という病気や対応方法への正しい理解を深める取り組みを行い、個人の早期受診や早期対応を促進するなど、認知症のご本人やご家族を見守り、支援する輪を拡げています。

そこで今回は、皆様に、認知症に関しておたずねし、認知症についての理解や支援体制の推進に向けた取り組みの充実に役立てていきたいと考えています。

用語解説 認知症とは

認知症は、さまざまな病気がひきがねとなって、「記憶する」、「時・場所・人などを認識する」、「計算や計画をする」などの認知機能が低下していく「脳の病気」のひとつです。（※同封資料参照）

問7 認知症は、早期診断・早期治療を受けることで、進行を遅らせたり、症状を改善して生活上の障害を軽減することができると言われていました。

あなたは、このことを知っていますか。（〇は1つ）

- 1 知っている
- 2 なんとなく知っている
- 3 知らない

問8 認知症になっても、ご家族や周囲の方の理解と適切な対応によって、物とられ妄想や徘徊などの介護を困難にする症状を和らげることができると言われていました。

あなたは、このことを知っていますか。（〇は1つ）

- 1 知っている
- 2 なんとなく知っている
- 3 知らない

問9 区では、認知症について正しく理解し、本人やその家族を支援する認知症サポーターを養成する講座を開催しています。(※同封資料参照)

あなたは、この講座を知っていますか。(○は1つ)

1 講座を受講した

2 知っているが、講座を受講したことはない

3 知らない

→ 問9-1へ

問9-1 問9で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

あなたは、認知症サポーターを養成する講座を受講してみたいと思いますか。

(○は1つ)

1 受講してみたい

2 受講したくない(理由:)

問10 もの忘れが気になったり、認知症の症状があり困っているときなど、身近で相談できる「認知症・もの忘れ相談医」がいることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

2 なんとなく知っている

3 知らない

テーマ4 成年後見制度について

成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害などによって、物事を判断する能力が十分でない方（「本人」）について、本人の権利を守る成年後見人等（「成年後見人・保佐人・補助人」）を選ぶことで、本人の意思を尊重し、その人らしい生活のために、法律面や生活面で支援するしくみです。今後、制度の更なる利用促進を図るために、区民の皆様に成年後見制度に関する意識や利用意向、制度の運用体制についておたずねします。

問11 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない（今回初めて聞いた場合も含む）

問12 あなたは、あなた自身や家族・親族が、認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 利用したい → 問12-1へ
- 2 利用したくない
- 3 わからない

問12-1 問12で、「1」に〇をした方にお伺いします。

成年後見制度を利用する際、どのような人に成年後見人等になってほしいと思いますか。すでに利用している人もお答えください。

(あてはまるものにいくつでも〇をつけてください)

- 1 家族・親族
- 2 弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門家
- 3 市民後見人*（社会貢献型後見人）
- 4 社会福祉協議会
- 5 法律又は福祉に携わる法人
- 6 その他（)
- 7 わからない

*市民後見人とは、弁護士や司法書士などの資格を持たない市民の中で、成年後見に関する一定の知識等を身に付けた第三者の成年後見人等のことです。

問13 あなたは、成年後見制度がより多くの人に利用されるために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 情報提供や普及啓発を充実させること
- 2 費用の負担の心配が少ないこと
- 3 プライバシー保護が徹底されていること
- 4 手続きが簡単にできるようになること
- 5 不正防止策が強化されていること
- 6 その他 ()
- 7 わからない

問14 現在、成年後見制度に関する周知方法として、知っているものは何ですか。
(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 広報新宿
- 2 パンフレット・チラシ
- 3 新宿区社会福祉協議会広報紙「けやき」
- 4 区ホームページ
- 5 新宿区社会福祉協議会ホームページ
- 6 区ツイッター・フェイスブック
- 7 その他 ()

テーマ5 ユニバーサルデザインについて

新宿区では、だれもが移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちの実現のため令和2年3月に「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例」を制定し、ユニバーサルデザイン*のまちづくりを推進しています。区民の皆様が感じているユニバーサルデザインに対する課題等を把握することで、今後、ユニバーサルデザインを推進していく上での参考にしたいと考えています。

用語解説 ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインは、年齢、性別、国籍、個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境を作り上げることです。

問15 あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 言葉も意味も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない(今回初めて聞いた場合も含む)

問16 ユニバーサルデザインについて、あなたが重要だと思うものは何ですか。

(あてはまるものに2つまで〇をつけてください)

- 1 わかりやすいパンフレット類の作成、配布
- 2 講演会やセミナーの開催
- 3 学校教育・社会教育の充実
- 4 先進的取組の情報収集・紹介
- 5 さまざまな人との交流の場や機会の設置
- 6 広報紙やホームページなどによるPR
- 7 動画やSNSによるPR
- 8 著名人を招いたシンポジウムの開催
- 9 その他 ()

問17 ユニバーサルデザインについて、あなたが区に期待することは何ですか。

(あてはまるものに3つまで〇をつけてください)

- 1 ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備
- 2 教育、人づくりなどの人材育成
- 3 ホームページや各種広報媒体による情報提供の充実
- 4 ユニバーサルデザインを取り入れた施設等の見学・体験会
- 5 地域や企業へのユニバーサルデザインアドバイザー派遣
- 6 その他 ()

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、以下の回答者の属性をご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。（〇は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(〇は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

9月17日(金)までに、ご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

E-mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

令和3年度第2回新宿区区政モニターアンケート

令和3年12月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2021-17-2106

この印刷物は、業者委託により320部印刷製本しています。その経費として、1部あたり330円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。